臺灣日日新報

本日八頁

發行所　臺北市榮町　臺灣日日新報社

北投タイル
耐火煉瓦と粘土
北投窯業株式會社

明治メリーミルク
（女兒標煉乳）
レッテルで大當り景品！

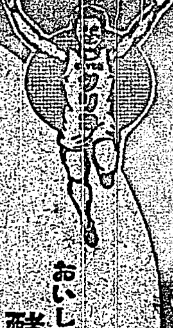
罐張レッテル裏に記載の金額を
お買求めの店舗にてお引換致します
（記載金額五圓・壹圓・五十錢・其他）

母乳代用　品質優良
內外第一　價格低廉

內標添附景品發售！
內標所記載金額、在店舗
即時可換、景品內容豐富
且佳、務祈買上是幸

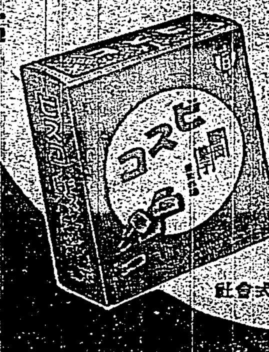
明治製菓株式會社

ビスコ



おいしくて強くなる
酵母菓子

おやつに、食後に最もよろしく
コーヒ又はお茶の友として風味格別と高評です



十錢

グリコ株式會社（東京・大阪）

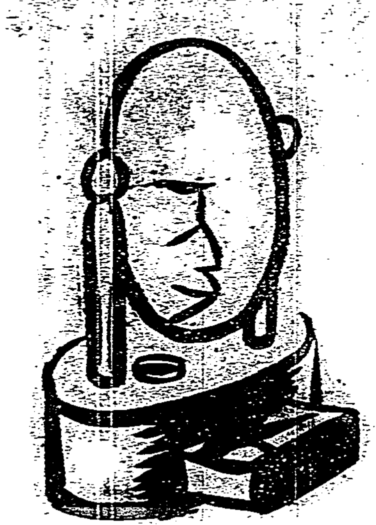
ひぜん病
全治水

●たむし
●水むし
●いんきんたむし
●はたけ
●雀斑の害
其他一般ひふ病の專門藥

全國到る處藥店にあり

タバコのみの
齒磨スモカ

無智はそれ自身が既に罪悪だ、喫煙してスモカを知らざる……が如きそれ



766

理想的
酵母劑
バドマシン

三三〇錠入　一円

消化促進に
食慾增進に
榮養補給に
精力增大に
老衰豫防に

北海道帝國大學醫學部教授　中澤博士指導
吉田病院長實驗推奨

製造元・帝国製糖株式會社

たんせき　ぜんそくに
立効丸（リッカウガン）

獨特のシャブリ藥

痰・咳を怖れよ！
肺炎、肋膜炎に變症し、且つ肺浮腫の危險がある！

發賣元
守田寶丹本舖
東京市下谷區池之端仲町
振替東京二九八五番

かぜ　ねつ　婦人冷之込み

寒さを征服！
健康に朗かに

身體の内部から温めて感冒を防ぎ、冬中元氣で暮せる婦人良藥守妙を御備へ下さい

絶對中毒の恐なく綜合的なキキメを誇る純粋和漢藥！

發汗解熱整腸の優れたる作用により肺炎肋膜炎等への變症を防げ！

主効

守妙定價
二十錢
五十錢
一圓
二圓
全國藥店にあり

寶丹本舖
守田治兵衛
東京市下谷區池の端仲町
大阪市南區

守妙（モリミヤウ）

胃腸にタカヂアスターゼ

一般ヂアスターゼとは全然その製法品質を異にするものなり

胃腸病の七割は澱粉消化不良なりと云はる、二十餘種の消化酵素を含み消化力強大、消化不良に因する各種胃腸病に恰適

SANKYO

東京・大阪　三共株式會社

臺灣日日新報社編輯
改訂增補
臺灣六法
定價金四圓　送料卅八錢
發行所　臺灣日日新報社商事課

東京市小石川區江戸川町壹
電話小石川（85）二四四六・二八
鈴江特許法律事務所

臺灣の各位には御便宜を圖ります

所主・東京市囑託・弁理士　鈴江元太郎

味の素
（登錄商標）

身の養生貧しくも、親子揃つて水入らず、味の素でうめえ物を食ふ時は御大盡さ。

味の素本舗　株式會社鈴木商店

第參拾六回決算報告
（昭和十年十二月三十一日）

基隆炭礦株式會社

大阪商船

近海郵船　基隆出帆

辰馬汽船

大連汽船

先手は打たぬが 劈頭解散に傾く

政府部内の對議會策

決定は十六、七日頃か

【東京五日發】政府は來る七日の初閣議において明年度殖民地特別會計豫算案を正式決定したる後各閣僚[illegible]休會明け議會に對する政府の對策方針に付き重ねて協議を行ふこととなつたが、政界の情勢は年末以來何等の變化なく、從つて政府として一應は和戰兩樣の用意を持つて政友會今後の動きに應じ善處するの根本方針を持續する外ない立場にある、然るに政友會内部を見るに議會再開切迫と共に漸次强硬論擡頭の形勢にあり、これに對して民政黨側は依然として劈頭議會解散論を主張し、この間にあつて政府部内でも軍部側は政界革新の名目の下に劈頭の解散に賛意を表し、又後藤内相等官僚派も漸く所謂國體明徵論の困難なるを悟り、劈頭解散も亦已むなしと見て唯解散の時期如何に拘はらず飽くまで現案の修正を期せんと決意しつつある、唯昭和會の望月、山崎、内田三相の立場は相當微妙で劈頭解散にせよ議會切拔けにせよ今後政友會の黨内事情に應じて種々の工作に出でんとしてゐる、斯くて政府部内の大勢は岡田首相の所謂解散の先手は打たぬと云ふ方針を表面に示しつつも前議會當時の如き[illegible]の戰々兢々たる態度は見えず相當强硬な氣勢を以て一貫しつつあることは注目すべきで、政府の最後的態度は勿論七日の閣議でも決定せず、來る十六、七日頃まで持越されるものと見られるが、政友會側の動向と共に茲旬日の政界の動きは極めて注目されてゐる

南京會議には 應じてもよい

しかし前提として

支那の反省を要望

【東京五日發】廣田外相は四日須磨南京總領事より詳細報告を聽取し更に引續き兩三回に亙り現地側の强硬態度に付き意見を徵する豫定であるが、四日の會談の結果大體において既定方針を固持し、南京會議に依り日支兩國關係の全面的調整を圖るに方針を決定、これが前提として支那側の反省を要望するに決した模樣である、即ち

支那側は丁紹伋代理大使をして全面的日支交渉開始方を提唱したが、未だ何等具體的問題に觸れず、或は北支問題、日本人暗殺問題等に刺戟された我が輿論の緩和を圖る手段とも見らるゝ節もあり、一方支那側は王寵惠氏を通じ廣田外相に提唱した互惠平等の要求及び過般の張外交部長の就任挨拶より見て不平等條約の撤廢を要望しつゝあるものゝ如くである、斯くの如く支那側が不當なる要求を提出し、或は交渉を他の目的に

利用するが如き態度に出づるならば日支關係の打開は不可能であるから、外務省では先づ支那側が排日運動を徹底的に取締り、交渉開始の素地を釀成し、次で支那側より交渉の希望として我が二原則に基く具體案を提示する必要があると爲し支那側の反省を要望してゐる、廣田外相としては以上の如き前提條件が容れられるならば依然として日支外交交渉の協調方針を捨てずとの態度を固持しつゝあるものであるが

黨部の强硬態度に押され氣味の蔣介石氏がこれに對し果して如何なる態度を取り得るかは頗る注目されてゐる

若杉參事官を 南京に派遣

懸案解決の爲に

【上海四日發電通】國民政府は日支國交調整の爲め南京會議を提議してゐるが、我方としては現在の日支兩國關係より見て本末顚倒と云ふべく若し國民政府にして南京會議の開催を希望するならば先づ黨部の對日强硬分子及び歐米派等の反對を押へて日支兩國諸懸案の解決に努力すべきであり、砂くとも有吉大使蔣行政院長の根本的國交調整交渉と同時に張群外交部長と我が外交當局との間に具體的懸案解決交渉を開催すべきであると爲しこの旨を率直に國民政府當局に傳へることに決定した、その爲め有吉大使は若杉參事官を南京に派遣し張群外交部長との間に日支航空連絡、關稅改訂、北支自治區域、對日關係の改善等に付き具體的交渉を行はしめる意向で、若杉參事官は右の爲め本月中旬約一ケ月の豫定で南京に向ふ豫定である

北寧鐵路は 分轄管理か

急行列車事件に 深甚な謝罪の意

【北平四日發電通】北寧鐵路當局は四日北平駐在武官今井少佐に對し三日昌黎附近にて起つた急行列車事件で我軍憲兵傷害の事實に對し深甚なる謝罪の意を表し、且つ今後停戰區域内の冀東自治政府範圍内北寧線管理權問題解決に付き冀東政權側との斡旋方を要請したが同政權は既に關内北寧線收入及びその他鐵道財產の接收を遂げ、同區内北寧線管理の實權を握つてゐるので北寧線當局が冀東自治政府側の管理權を完全に承諾せざる限り問題の解決は困難で、これを機會に冀東自治政府の管下北寧線分轄管理問題は本格的に具體化するものと見られてゐる

張公權氏が 宋氏と重要會談

北寧鐵道問題につき

【北平四日發電通】國民政府要人張公權氏は四日午前午後に亙り宋哲元氏と會見し、北寧鐵道管理問題を中心に重要會談を遂げた、右は冀東自治政府が西部北寧線の大半を單獨管理に移さんとするに對し善後策を協議せるもので、宋哲元氏は冀東自治政府が冀察政務委員會に合流せず、却つて獨立の傾向濃厚なる爲め問題解決は極めて困難なることを述べ、張公權氏は冀察政務委員會の責任において鐵道主權の分離を來すことなきやう善處されたいと希望せるのみで何等結論に達せず、更に五日會見を行ふに決した、猶四日の會見において張公權氏は蔣介石行政院長の意向を傳達し頻に牽制を行つたと云はれる

米國の歲出入

【ワシントン三日發本社特電】米國財務省は一九三五年會計年度後半及び一九三六年會計年度前半の歲出入を三日左の如く發表した（單位弗）

歲出　[illegible]

歲入　[illegible]

公債總額　[illegible]

同公債總額は前年會計年度に比し約二十億弗の增加を示してゐる

駐日大使就任を 何應欽氏受諾か

後任の人選に惱む

【上海四日發電通】國民政府は駐日大使の後任の人選に惱んでゐるが、蔣介石氏は然るべき軍人出身の日本通を起用する方針で目下軍政部長何應欽氏に交渉中であるが何應欽氏は曩に北支自治問題の收拾に成功した矢先きとて受諾するものと見られてゐる

米大統領の 教書の反響

英は喜び伊は一笑

【ロンドン四日發電通】米大統領の議會教書は武力行使國家に對する暗默的抗議としてイギリス官民に非常な印象を與へたが右に就きイギリス側責任ある代弁者は左の如き見解を發表した

米大統領が紛爭の禍中に捲込まれぬ樣に用心しつつ然も明白に新しき征服計畫乃至征服の野心に對し厖汎なる權威をもつて反對を表明したことは極めて重大視さるべきである、又對伊制裁のため石油禁輸に協力する用意あることを暗示したものとも考へられる

【ローマ四日發電通】米大統領の議會教書に對しイタリー政府當局は一顧の價値なきものとして冷淡な態度で迎へたが政界要人は左の如く酷評してゐる

ルーズベルト大統領は實際の國際の場合を認識しないで一般論を列べたゞけだ、イタリーの眞の立場を解し本當の眞相を良く知ることが必要だ、エチオピアに對し四十年も忍耐を重ねて來たイタリーに對し今更何の忍耐があり得ようか、然も教書中イタリーの目的の合理的合法的なることを是認するかの如き言及ある點のみは欣ぶべきことである、我々は斯かる是認が具體方策を伴はなければ全然無意味であることをここに附言せねばならぬ

エ國政府提出の 覺書を公表

國際聯盟事務局から

【ゼネバ四日發電通】國際聯盟事務局ではエチオピア政府提出にかかる覺書を公表した、右覺書は聯盟に對し速かに伊、エ紛爭事件の眞相に關し公正なる調査を行はんことを要請し、この調査を行ふに充分なる權限を有するものは十三國委員會なることを指摘せるものであるが、右調査が至急行はれるにあらざれば侵略なる行爲は防止されざるべく、その結果はアフリカ全土に亙つて避くべからざるものがあり、且つその記憶は永續して東アフリカの平和回復の爲めに克服し難き妨害となるであらうと述べてゐる

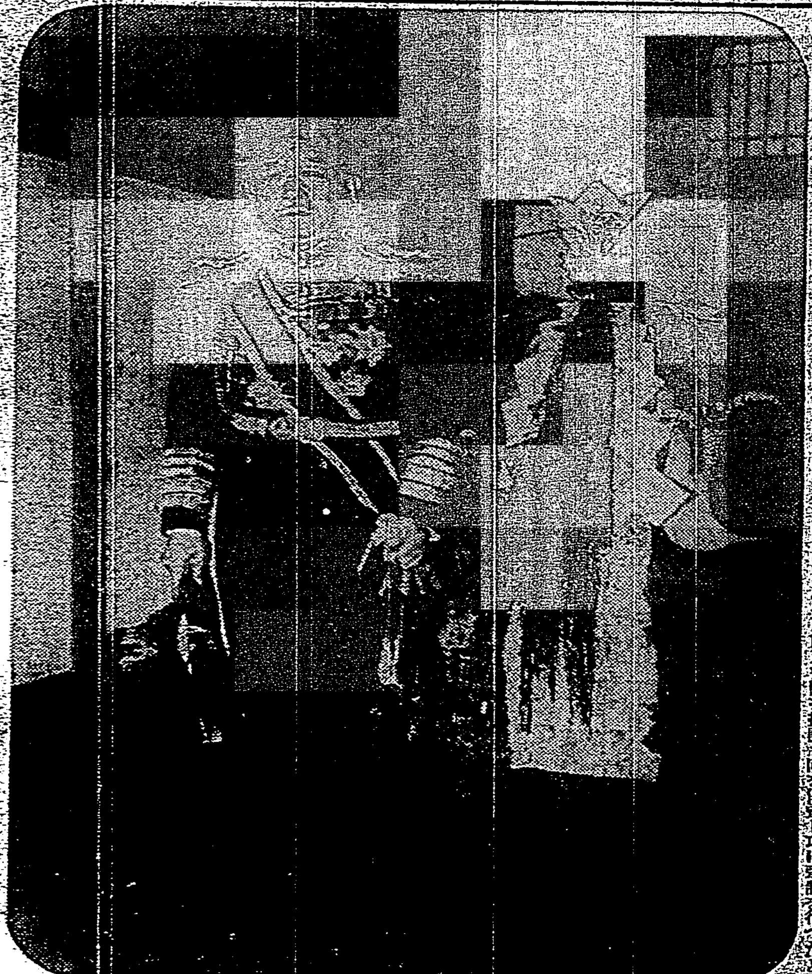
眞相調査に急行した 日本官憲の上陸阻止

國旗凌辱事件は更に重大化

【天津四日發同盟】帝國總領事館は宋軍の國旗凌辱事件に關し四日午後大沽に駐在する片岡警察部長に對し眞相調査を命じた、依つて片岡部長は直ちにランチで大沽に急行し、上陸せんとするや二十名の宋軍所屬兵は頑强にこれを阻止したため同部長は上陸不可能となり引き返すの餘儀なきに至りた、斯くの如く宋軍の不法行爲は國旗凌辱事件を誘致すると共に日本官憲の自由行動を妨害するものとして事件は更に重大化するに至つた、因みに國旗凌辱事件は二日午後四時頃大沽駐屯の宋哲元軍第二十九軍の五十名が邦人商店大島、大西兩洋行に亂入し、現金並びに商品を强奪し、あまつさへ新年を祝して掲揚してあつた我が國旗を引きおろした上これを引き裂き暴行の限りを盡し暴擧をあげて引きあげた事件である

宋軍代表が 遺憾の意を表明

【天津四日發同盟】支那駐屯軍は片岡警察部長の大沽上陸阻止事件に關し四日午後宋哲元氏の駐津代表陳中孚氏に對し嚴重警告を發した、之に對し陳代表は率直に遺憾の意を表明、誠意を以つて解決に當る旨を答へた、之に依り上陸阻止事件は一段落を告げ、我が官憲の國旗凌辱事件に對する調査は圓滑に進捗するものと期待されるに至つた、從つて問題の重點は大沽における實狀調査の結果如何に懸かることとなつた



岡田首相、宮中御恒例の拜賀に參內

首相の施政方針

「演說の要項」

十五、六日頃に脫稿

【東京五日發】岡田首相が休會明け議會の劈頭貴衆兩院において行ふべき施政方針演說の要項は目下白根書記官長の手許で各省より材料を集め立案に努めてゐるが、十五六日頃迄に脫稿する豫定である、而して其內容は[illegible]首相に於て[illegible]の意を表し奉つた後、施政の內容に入り、外交、國防、産業の各部門に亙り政府の根本[illegible]政策と國民生活の安定等に言及し最後に憲政の常道復歸、肅學振興を宣言する事となつてゐる、即ち演說要項は大要左の如くである

一、外交面に軍縮會議、帝國政府は極東の平和に[illegible]世界の平和に寄與せんとすることには終始一貫變らざる所である、ロンドン軍縮會議に當つても公正妥當な軍縮協定を締結せんとし全權委員を送つて世界平和及び軍費節減に寄與せんと努めてゐるが、軍縮の實を擧げるに當つて各國間に不脅威不侵略の態勢を確立することは國民の負擔を輕減し、眞に世界の平和に貢獻する最善の方法なりと確信するものであり此の貫徹に全力を注ぐものである

一、滿洲國關係、日、滿兩國關係は益々緊密を加へ滿洲國に於ける諸般の制度及び施設も着々整備するに至つた

一、明年度豫算及び財政問題、明年度一般會計豫算は前年度に比し多少增加してゐるが現下の內外情勢に鑑み[illegible]ものである

一、[illegible]國民生活の安定

一、東北地方振興[illegible]

一、[illegible]議會、[illegible]協贊を經て內閣審議會及び內閣調査局を設置し先づ第一に中央地方を通じて財政の改善に關する根本方策を審議し、其答申に基き明年度豫算に於てこれが實施を急ぐものは其實行に努めて居り、更に稅政の根本的刷新を期してゐるが、[illegible]文教の刷新に關する根本方策に就き鋭意審議を進めつつあり早晚之れが成果を期待し得る豫定である

一、國體明徵の貫徹、國體明徵の貫徹は無比なる我が國體の本義に基き國體明徵の實績を收めんが爲め全幅の力を盡すものである

一、政界淨化と選擧肅正、今春は衆議院議員の總選擧が施行されるに際して益々選擧肅正の實を擧げ以つて[illegible]憲政の改善を期せんことを期するものである

エ國、埃及の 公使館開館

【東京五日發】外務省では昭和十一年度事業の第一着手として一日エチオピヤ及び埃及公使館の開館を了したが、エチオピヤ代理公使鈴木二等書記官から四日外務省への報告に依れば公使館は當分アヂス・アベバ市インペリアルホテルに置き、皇帝がデシエの戰線より御歸還になるを待つて代理公使の認見式も行はれる筈である、而埃及公使館は當分の間アレキサンドリヤ總領事天城篤治氏を一等書記官として代理公使の職を執らしめることに決定したが、初代埃及公使は現駐英大使館參事官藤井啓之助氏の起用を見る模樣である

支那政府の 爲替管理

外國銀行にも 伸ぶ

【上海四日發本社特電】幣制改革後外國爲替の賣買は中央、中國、交通の三銀行に限られてゐるが、最近相場の低落に連れ外の外國爲替銀行は徐々外國爲替の場合に對し消極的態度を執り中央銀行の取引が急增するに至つたので爲替安定委員會ではこれが對策攻究中の所、中央銀行の爲替統制力を强化せしむる一方法として中央銀行が外國銀行より購入計畫をした外國爲替はその受渡を完了せざる以前と云へどもこれを中央銀行の手持資金と見なし發行準備の裡に加へることとし政府の承認を得た上實施することとなつた、右爲替相場の動搖を一さう少くせんとするものと解され、政府の爲替管理の手が外銀の内部にまで伸びるものとしてその成行きは頗る注目されてゐる

蔣介石氏上海 に著く

【上海五日發電通】蔣介石氏は週末を利用し汪精衛氏見舞の爲め四日夜南京發列車にて上海に向ひ、五日午前七時北停車場着、フランス租界の孔祥熙氏邸に入つた

新春金融市場 順調に推移

【東京四日發本社特電】新春金融市場は極めて順調に推移し旁々今後も年末資金の還流から市場は一路緩慢を豫想されてゐるので日銀の所有公債に對する買氣は早くも活氣を呈し新春藏開け四日既に其額は米券一千萬圓、四分利二千萬圓合計四千萬圓の多額に達した右の中一千三百萬圓は前期來豫約中のものが一齊渡されたもの殘り二千七百萬圓中七百萬圓は即時受渡され殘り二千萬圓は休日明に於て受渡される豫定である今後市中銀行の手元資金の潤澤化と共に日銀公債の賣行は益々本格化するものと見られてゐる

人事

▲荒木萬公賣局[illegible]課長　會議出席の爲め四日夜上京

▲山宮彥熊[illegible]院長　事務打合せの爲め四日夜出府

▲原田次郎氏（臺灣紙業會社）五日內地より歸臺（鐵道ホテル）

シナチク

遞信省内のゴルファーの團體に日比谷倶樂部といふのがある、之を牛耳るのが赤木[illegible]局長で萩原管理局長や入江次官も部內相當の强の者だが偶々新臘二十一日の日曜にこれらの面々打連れて駒澤リンクスに大に腕を揮ふこととなつた▲幸ひ當時臺灣總督府から川村[illegible]、西村[illegible]の二課長も上京中であつたので、倶樂部側から忽ち誘ひがかかり一つ遞信側の御手並拜見といふ事になつたが生憎川村、西村兩君は至急[illegible]の用務で同伴できず、獨り[illegible]君のみ勇躍して參加を申出でたが其の際「遞信の連中は大低僕と似たり寄つたりだから僕は敢て督府代表として加はらう」といふ觸れ込み▲ところがそれを聞いた殘りの兩君[illegible]にをさまらず、[illegible]課長に代表されては督府組一代の名折れだと地團太踏んでも後の祭り當日[illegible]の成績は聞いて見なくとも解つてゐるからせめてこんな事でもと督府の若手ゴルファーの會を近く開催し、其の結果を突きつけ此の鬱憤だけは[illegible]いくら[illegible]でも[illegible]と、[illegible]に計畫を廻らしてゐるさうだ

謹賀新年

最も安價な高砂の鋤燒
輕便な現代的 大衆食堂
臺北市西門市場前 高砂ビヤホール 電話參〇四〇番
大平町三丁目 電話四百七五番 高砂食堂支店
酒類食料品 臺北市福山町二十二番地 柏木商店 電話參〇五武番
高砂生ビール特定販賣所 冷凍物販賣 同所 柏木商店麥酒部 電話四百七五番

銘酒 不二壽
納入元 台北市末廣町二丁目 玉理商店 電話一九〇九番

初春新柄 荷揃
臺北市榮町二ノ二 ヰ近江屋吳服店 電話二四九番 五〇五番

春の御用意は 臺北市京町一丁目 野口ハカマ店 を御利用下さい

◆春の和洋雜貨と羅紗製品の新荷が 豐富に到着致しました 是非一度御覽下さい……
(京)川崎商行 臺北市京町 電話參〇〇番

產婆 佐々木芳子 臺北市東門町一四三番地 電話四〇〇八番

御結婚御宴會 四ツ切り以上特價奉仕
御寫眞 榮町三丁目 サンスタヂオ 電話[illegible]

株式會社 第一カフェー
社長 陳子從
常務 黃庭輝
支配人 陳福木
電話一八七九番

藝術的 フランス味覺の 大宴會場 グラウンド ライオン 電話 客用2436 事務用2379

大谷金庫 東京製 台灣總代理店 長谷川商元

內科 小兒科 呼吸器病科 入院隨意 淺井醫院 臺北市末廣町 電話四〇貳番

一月七日より三十一日まで
恒例藤井の福引景品附
初ゑびす大賣出し
初春の御福運をどしどし御引當て下さい
御買上一圓毎に福引券一枚宛進呈致します
景品目錄 絹蒲團 反物 クツシヨン 毛布 丸帶 座蒲團 名古屋帶 外景品 淨山 空鐵 景品總數二萬本 空本もなし
新春を壽ぎ舊年中の謝恩
仕立名古屋帶全部二割引
大特價品 小ぎれ半額以下
臺北市榮町 電話一九七七番 二三五〇番 藤井吳服店

明けまして御目出度う御座ひます
歡樂と淸楚な
カフェー永樂 臺北市西門町 電話參〇〇九番

御正月の宴會とは眺望絕佳 早朝の湯煙りを御觀賞下さい……
絕景の 北投溫泉 やまと を ……どうぞ御利用下さい
本年は新館も大小共揃つて居ります
御旅館 やまと 北投 電話三六番 五〇番

新年宴會は
●最も新式の洋館宴會場の日活を御利用下さい
●五十人樣でも百人樣でも樂々と御引受致します
勉强と努力の カフェー日活 臺北市末廣町 電話貳〇貳九・四貳九〇番

季節料理
淸酒の芳醇、清澄の香り 天下の珍肴季節料理の美味！
新鮮、安全！低廉 ●新築の新座敷も出來ました
新年宴會は梅酒と季節料理で 春は新座敷を御利用下さい
御料理 飄亭 臺北市[illegible]町 電話參四番

山葉ピアノ
御子樣の情操を美しく……
五十年の熟練技術 最新の科學的研究
完全無比の大工場 品質第一主義をモツトーとする
世界一流 名製品……
金五百圓より金五千圓まで 月賦規定有
御家庭を樂しく明るくする……
台北榮町 日本樂器臺灣出張所

野鼠を好んで喰ふ
高山蕃の奇習
子供には丸燒にして與へる

花蓮港廳下の高山蕃ブヌン及びタイヤル兩種族は古來鼠を食用とする習慣がある、彼等が鼠を食ふのは丁度子供がキヤラメルを好むやうなもので各々が道を歩いて空腹を覺える時に、一碗の食物を要求するのと同じ理窟である、鼠の食ひ方はタイヤルとブヌンとは多少異なつてゐる、タイヤルは普通燒いて食ひ、ブヌンは燒いても煮ても食ふが、それだけ鼠を捕へることは實に上手なものである、教育所の兒童などは學課をなまけ、途中で鼠を捕つて遊んだり、又大人は暇のあるときや又は仕事の餘暇を見ては山野をかけ廻つて鼠を捕るのである、鼠を捕るには大抵罠を用ゐるが、多い時には一人で十本乃至二十本の罠を使用し、大體捕獲をやつてゐるが普通は一人で五本乃至十本を用ゐ、罠等で捕つてゐる、しかし彼等の食ふのは野鼠ばかりで、家鼠は殆んど食はないやうである

◇

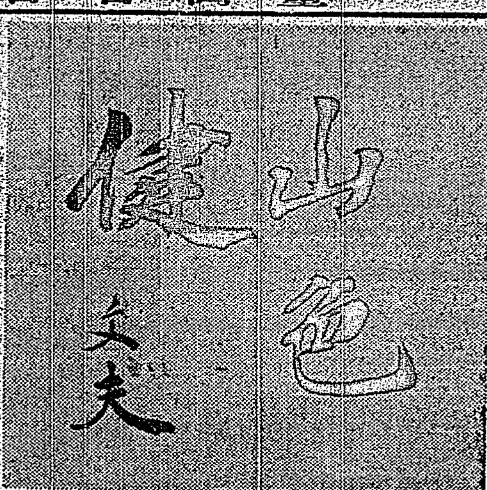
鼠の食ひ方については色々面白い習慣があるが、各蕃社一様ではないタイヤル族のタロコ蕃には次のやうな習慣が殘つてゐる、先づ捕つた鼠を焚火の中に入れる、火の中で一番に毛が燒け、次に細かい部分の尾、四肢などが燒けて行く、それを引き出して尾は女に與へるこれは山に獵に行くとき尾を食ふと獵が出來ないといふ習慣から來てゐるものである、もし又尾を子供が食ふと恐ろしい子供になると言ひ傳へられてゐる、四肢はちぎり取つて子供に與へ、身體の部分の內で內臟その他は中によく燒けないので、更に火に入れるが、それが燒けると頭は男子が食ふ、これは獵が出來るといふ迷信に依るもので、五體は男女老幼を問はず誰でも食ふのである

◇

かうした迷信や習慣は秘密として容易に人に漏らされぬ習慣となつてゐる、特に面白いのは鼠の睾丸である、これは子供が食ふとすぐに老人になつて了ふといふ迷信があり、老人の食ふものときまつてゐる、蕃社を歩いて見るとよく子供が芋の黑こげになつたものをムシヤムシヤ食つてゐるがよく注意して見ると、それが往々に芋ではなく鼠なのである、これは誰しも異様に感ずるが、蕃通にいはせるとごく普通の事だと説明してゐる丸こげになつた鼠をムシヤ／＼食つてゐるのを見ると如何にも甘さうであるが、食つた人の話では全く甘いといふことである

◇

それからエロチツクな方面ではかういふ迷信が行はれてゐる、一人の青年があつて、鼠を食つた晩に女と同衾した夢を見ると、翌日早速女の家に押しかけて行つて、女を娘にくれとたのむ、もし家人が斷つたりすると、夢の話をして有無を言はさず女を自分のものにして了ふといふことである



後藤內相試筆

母性愛から遂に
世界的發明をなす
大甲帽の元祖鴦女史

新竹州名物の中に大甲帽があるが之は新竹州の大甲郡が原產地でなく、實際のところは新竹州苗栗郡苑裡庄である、この大甲帽が臺灣の一婦人の手に依つて成功し而もその動機が切々たる母性愛の發露に依ることを知れば吾々はその婦人に對し甚大の敬意を拂はざるを得ないであらう、世界的產業功勞者として洪氏鴦女史は[illegible]の嘉永六年八月十一日新竹州苗栗郡苑裡庄苑裡二二の貧しい農家に呱々の聲をあげ當年八十四歲になる、世に言ふ如く幼にして聰明元來の田園に繁茂してゐる三角藺で蓆、帽子等の編み方を[illegible]様を考案しては附近の婦女子に之を教へてゐた、明治十九年頃臺北の某西洋人が紙捻で中折帽の雛形を作り之を苑裡方面の蓆職工に送り『三角藺で雛形の様な帽子が出來ないか』との註文を發したが誰一人之に應ずる者がなかつた際女史は只一人熱心になつて此の編方を研究したものであつた、然し一朝一夕で意の如くならず苦心慘憺[illegible]の編方を考案し[illegible]苦心の結果たる三角藺による帽子の編方を一般婦女子に傳授し以て今日の大甲帽の基を築いたので[illegible]て苑裡地方を[illegible]下駄表、座布團、手提鞄等にも應用し精巧なものを編出すやうになり時代の要求に副ふことに努力を續け今日に於ては苑裡地方住民は三角藺製品に依つて生計を營むと云つても過言でない程度になつてゐる

同女史は公學校訓導をなすこと二回、特に大正九年八月臺北に於て開催された地方學事會議には手工教師として本島人女子の最高丈の氣を吐き、大正十四年四月には產業篤行者として賞勳局より銀杯一組を下賜され、同十四年七月には技術發明者として帝國發明協會より優等賞の[illegible]を受け近くは昭和二年二月篤行者として新竹州知事より表彰されてゐる、然し女史の最も名譽としてゐるのは大正十二年皇太子殿下本島行啓の際、產業篤行者として拜謁仰付けられ御菓子一函を賜はつたことである、誠に八十四歳とは云へ元氣矍鑠若者を凌ぐ有樣で同地方民敬仰の的となつて居り、[illegible]にも出すべきであらう、同家は家族七人で家庭は極めて圓滿で[illegible]同女史が帽子を編むに至つた動機は家が貧しくて炎天下で娘が頭に何も被らずに働いてゐる姿を見てそれは娘が可哀さうだ、何か適當な被物を編んでやりたいと思つたのがその始まりでしたと、母性愛から大發明を生んだのである、因に現在苑裡庄長の職にある陳貫氏は實に氏の娘婿である

澎湖は長壽地

澎湖は健康地で長壽地とされて居るが昭和九年末現在長齡者は七十歳以上男七〇七、女一、〇三四、八十歳以上男一七八、女三五〇、九十歳以上男一三、女四二、計男八九八、女一、四二六で總人口六六、八四三人に對する此數字であるから他に比較して長壽地として差支へはあるまい

"三千年に一度當籤"

お正月だからつて、こんな話ぢやいけないでせうか、之は新竹州の或る相當の地位の方々が冗談半分に話してゐたことなのですが一年に一度のボーナスを貰ふのは何より嬉しいものだが、此のボーナスを一割天引きして皆で出し合ひ、三萬圓なり五萬圓なりが出來る、之を抽籤で一人が攫つて了ふ、その人が一人殘されたことになると云ふ寸法です、だが或る人曰く「とヤー、一人年五十圓出すとして二千人で三萬圓になり、一番籤に當選するまでには三千年目だぞ、おい、止せ／＼」でオジヤン

賀正

賀正
有價證券賣買
明治屋商店
月形賢次郎
臺北市大和町四ノ三
電話三二〇二番

高橋電機工作所
高橋三郎
臺北市榮町四丁目二十六番
電話[illegible]

謹賀新年
本年も一層御引立を願ます
正月元旦　サロンO.K
大稻埕の名物　許火車
電話[illegible]

賀正
臺北市本町通り
小野刀劍店
小野賢[illegible]

臺灣書籍雜誌商組合

臺北寫眞業組合

富士ミルク
富士クリーム
鐵道（守山）珈琲乳
名物（守山）グリコ乳
株式會社　守山商會出張所
臺北市大正町八條
電話一四二二番

台灣冷凍工業株式會社
臺北市太平町三丁目八十六番地
社長長谷川鐵工所臺灣總代理店
電話二六一五番
製氷設備　冷藏設備　冷却裝置　換氣冷房裝置

諸機械設計製作並ニ修理
廣畑松平
臺北市老松町一ノ二五
電話[illegible]番

今年も不相變御引立願ひます
スミレアパート
內地みやげ
南國物產商會
臺北市京町二丁目
電話[illegible]

松下電器產業株式會社配給所
東京電氣株式會社臺灣總代理店
小林商店電氣部
電話[illegible]

臺北　公園前　白川餅
電話一〇七〇番

臺北市榮町二丁目
朝日堂
電話[illegible]五四番
同　福住町三
朝日堂製菓工場
電話[illegible]

臺北市新起町二丁目
空瓶商　高橋商店
電話[illegible]〇七四番

臺北市太平町三丁目二十八番地
保證責任　臺北勸業信用利用組合
[illegible]

北投庄
庄長　平山元助
助役　陳清地
會計役　洪金火

北投信用購買組合

北投檢番
電話一二九番

北投料理屋組合
電話一〇六番

北投旅館組合
電話一〇四番

舊年中は格別の御愛顧を蒙り難有
御引立の程偏に奉願上候謹言
臺北市太平町三丁目二四四番地
株式會社　菊元商行
菊元百貨店　榮町三丁目　電話四〇五〇番
菊元卸部　太平町三丁目　電話[illegible]八五番
菊元小賣部　太平町二丁目　電話五[illegible]五番

臺北市明石町二丁目三番地
赤司鑛業株式會社
電話五二六番

[illegible]
臺灣運輸株式會社
社長　高野吉太郎
專務取締役　杉本三郎
常務取締役　高見三吉

謹賀新年
本年も相變らず
御愛顧の程願上候
昭和十一年一月一日
臺北市榮町二丁目二十番地
新高堂書店
村崎長昶

臺北醫師會

日本赤十字社臺灣支部

臺北市本町三ノ一
臺灣勸業無盡株式會社
電話一〇〇九・五二二番

臺北市明石町二丁目六番地
千代田生命保險相互會社
臺灣支部長　伊藤麻吉
電話二八七〇番

臺灣鐵道ホテル
電話五六二
[illegible]

米穀類　砂糖麥粉類　各種油類　精米業　印麵類
吉岡德松商店
[illegible]

臺北市幸町百七十七番地
臺灣畜產株式會社
電話七六一五・四〇番

愛國婦人會臺灣本部

謹賀新年
臺灣生命保險協會（イロハ順）
日本生命保險株式會社臺北支店
日清生命保險株式會社臺灣支社
日華生命保險株式會社臺灣支部
常盤生命保險株式會社臺灣支部
片倉生命保險株式會社臺灣支部
第一生命保險相互會社臺北支部
太平生命保險株式會社臺灣支社
大正生命保險株式會社臺灣支部
安田生命保險株式會社臺北支店
帝國生命保險株式會社臺北支店
野村生命保險株式會社臺灣出張所
明治生命保險株式會社臺灣出張所
三井生命保險株式會社臺灣出張所
住友生命保險株式會社臺灣出張所

生活改善を主眼に 神前結婚を奬勵

アミ族の惡風を打破して

成績は豫想外に良好

花蓮港廳下のアミ族蕃人は古來女系相續で一家の相續人は必ず女を定められ、男は他家に入婿となる習慣である。隨つて女は家庭にあつては絕對の權力があり、もし女の方で相手が氣に入らなければ男の荷物を外に放り出して出て行けがしの態度を取る。然し男の方では別に抗議も反對もせず、大人しく諦めて實家に歸つて行く西洋の女尊男卑跣足といふ結婚振りである、それ故離婚などは日常の茶飯事で、二十數回も男を取換へた蕃女があつたとは嘘のやうな本當の話である。又男女の風俗の亂れてゐることはお話しにならぬ位、結婚といつても大抵野合の馴れ合ひで簡單な媒酌人があり、兩親の承諾などはほんの形式だけに止まり、男女が情意投合すれば結婚は成立つのである。かうしたふしだらな淫靡な氣分は到る處の蕃社に彌漫してゐるが、蕃人等は決して不道德とは思はず、當然のことのやうに考へてゐる。かうした不純な狀態に置かれてあることは、アミ族の發展を害し、民族を自滅に導くものであるとの立場から、彼等の生活改善を主眼として最近結婚改善の運動が唱へられ、そのトップを切つたのが薄薄公學校である。同校では時の渡邊校長が主唱となり、昭和六年十一月二十二日の社會事業記念日を卜し、從來の結婚方法を改善して純日本式の神前結婚を實施させることに定め、その目的を離婚防止、敬神思想の涵養、生活の改善、早婚防止に置き、翌七年二月には青年團長カオペル・カロロといふ者の結婚式を豊岡神社に擧行しその第一聲を擧げた、その後蕃社の先覺者は勿論、青年團員、一般蕃人に至るまで神前結婚を實施させ、昭和十年十二月末迄に百四十組の結婚が行はれ、而も從來朝飯前の事としか考へられなかつた離婚は悉く勿れ、僅々五組にすぎないといふ好結果をもたらしたのである。次に結婚の申合をいふと

一、男は年齡二十歲以上女は十八歲以上のものであること二、女系相續を男系に改めて行くこと三、結婚者は擧式前に神社境內を掃除すること四、神社には必ず賽錢を獻ずること五、結婚式には晴衣を用ゐること六、成るべく記念撮影をすること七、結婚役場に入籍すること八、離婚者はその理由を調査し五圓又は十圓の罰金を課すること等である

第二に結婚の儀式は純日本式を採用し、先づ時刻前に式場を整備し一同整席に著くと、神前に向つて敬拜しそれから祭主の修祓があり媒介者は祝詞を奏白する、兩婿及び媒介者が一齊に神前に進んで敬拜し、終つて參列者代表が神前に敬拜しかくて式を終り、盃事を婿の前に据ると、婿は第一の盃を嫁にすすめ、次に嫁は第二の盃を婿にすすめる、更に婿は第三の盃を嫁にすすめ、嫁は之れを拜して納め、參列者代表が祝詞を述べて一同退出するのである それが濟むと次には結婚の披露が開かれるが、披露宴は頭目、學校教員、警察官、友人、親族などが立會の上神式で行はれるが、その費用は三十圓以下と定められてゐる、かうして二ケ年間に百四十餘組の神前結婚が行はれたのだが、離婚は僅かに五組といふ破天荒の好成績を收め、結婚者の中には薄薄公學校訓導西村政次郎君夫婦を始め青年團員、先覺者、一般蕃人に至るあらゆる階級を網羅し、而もそれら一對の配偶者は何れも圓滿な家庭を作り上げて、從來の弊習を征服したのは何と耳寄りな話ではある

九十五歲の金妹さん（寫眞中の老婆）

95歲の金妹さん 働くが健康第一

藥は一度も呑んだ事なく

今でも每日孫のお守り

人生僅かに五十年と一口にいふがそれより更に四十年以上生きながらへて而も矍鑠壯者を凌ぐ本年九十五歲のお婆さんが花蓮港廳下に居る、それは現在鳳林區壯林に居住する曾氏金妹さんである、金妹さんは天保十三年十月三日新竹州竹東郡樹杞庄に生れ、年頃になつて謝阿集の妻となり四男二女を擧げた、夫は農夫であつた爲め、彼女も夫を扶けて育兒の傍ら野良に出でせつせと働いた、元來健康に惠まれた體質で病氣一つせず、貧しいながらも幸福な家庭の中に送つてゐたが、夫は明治四十三年病死し、その後は長男と次男の謝阿古が父に代つて農業にいそしんでゐたが、長男はその後家を離れてあちこちと勞役生活をなし現在では臺北州蘇澳郡大南澳に露丁となつて働いてゐる、次男の謝阿古も鄉里の方が思はしくなくなつたので、昭和七年家族を引きつれ安住の地を求めるため花蓮港にやつて來て、前記の鳳林區壯林に一戶を構へ、內地人の農耕をやつて今では至極平和な生活を營んでゐる、彼女が次男に連れられて花蓮港にやつて來たのは九十一歲の時であつたが、その元氣は驚くばかり、七十一歲の時畑の中で轉いて腰を打つたとかで それからは野良仕事は止めて了つたが、家の中でもぢつとしてゐることがなくボロを綴つたり曾孫をあやしたりして暇がないといふ有様、昨年頃から眼がかすむので縫物だけは止して了つたが、耳もよく聞え步くにも杖なしで不自由がない、昨年春皇太后陛下から御賜の眞綿を拜領した時などは、汽車に乘るのが嫌ひとあつて、小一里もある鳳林支廳まで家人が附き添つてテク／＼步いて行つた程の足達者である、記者が一日その家を訪れると、鳳林驛から一里もある野中の一軒屋で粗末な藁葺の建物ではあるが、水牛や豚、雞などが悠々と草を食つたり遊んだりしてゐる光景は、いかにも本島人の農家にふさはしい田園情緒である、人のよささうな五十からみの謝阿古さんは快く記者を引入れていろ／＼金妹さんの日常生活について話してくれた、そこに金妹さんも出て來て記者の傍の椅子に腰かけたが、一見健康な者を思はせるお婆さんだ、國語こそ解らないが言葉もはつきりとし耳もよく聞えるらしい、眼は幾分衰へてはゐるが、それでも普通の視力があるといつてゐる、阿古さんの說明に依ると、お婆さんは若い時から病氣らしい病氣を患つたことがなく、藥を飲んだ例しがない、唯七十一歲の時畑で腰を痛めてからは、人參をせんじて藥代りに服用してゐるだけだといふ、家庭が貧しかつたため、養生法などは思ひもよらず、働くことが何よりの健康法と心得てゐる、今でも三度三度の普通の御飯をたべるが、齒がないため硬いものは一切攝らず、時に豚の赤味やキモを柔かく煮て食べるのが何よりの好物となされてゐる、每朝六時には起床し、夕食後はすぐ寢込んで了ふ、今でも子供の世話をやき、特に五歲と六歲になる曾孫を可愛がつて家人の忙しい時には子守りをするのを樂しみにしてゐるさうである

全蕃社を擧げて 國語一色に彩る

薄薄社の倉本君の奮鬪

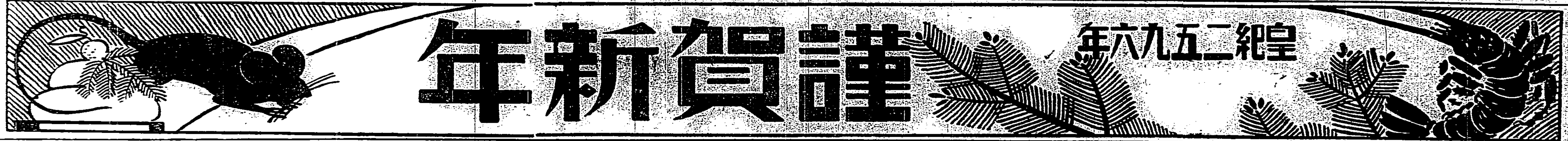
愛兒らも凡て內地名前

檳榔の木かげ蕃屋として蕃歌のリズム野良に冴え渡る平和の里薄薄の蕃社は、花蓮港廳下の中で最も國語熱が旺んであるだけに、國語を話す蕃人たちも多くあるが、その中でも特に紹介しようとする倉本國次郎君一家の如きは、國語家庭の模範として押しも押されもせぬものであらう、倉本君は土地の公學校を卒業後、花蓮港廳巡查を拜命し、在職十四年の長きに及んだが、巡查在職中は官舍生活をしてゐた關係から、日夜內地人と接觸する機會が多く、自然にその感化を受けて生活樣式も純然たる內地人式に改めたが、これは唯一片の形式ばかりではなく、自分は立派な日本人であるとの根本精神に基き、日本の生活樣式に從ふのが當然の義務であるといふ固い信念に燃えて、片つぱしから蕃風打破を實行していつた、しかし倉本君のやり方は極めて率直大膽であつたために、蕃社の周圍からはいろいろの非難攻擊を浴びせられたが、君は一向頓着することがなく、自分の理想と信念に向つて毅然と進んで行つた、君は國語は先づ家庭からとの標語を第一信條として家庭では妻女の米子さん（三二）も長女の文子さん（一〇）も國語を常用させるのは勿論、名前も純日本式に改名し、神棚を祠り臺の上に起居するといつた熱心ぶりである、又蕃社にあつては國語の普及に寢食を忘れて努力し、相手の蕃人が少しでも國語が解ると見れば絕對に蕃語を使はず、國語で話しかけるといふ有樣で、若し蕃人の中で國語を使ふのを非難する者があれば、諄々とその不心得を諭し、國語の必要と意義を說き明して、國語の習得に導くなど、その骨折り方は一通りでない、君の理想はどうすれば全蕃社が一人殘らず國語を常用し、蕃風と迷信を打破して眞に日本人としての生甲斐ある生活を營むことが出來るかといふ事である、しかし君の目的は國語の普及ばかりではなく、更に一步を進めて精神的の改革を圖らねばならぬとの立場から、先づ敬神思想の涵養を急務と認め、神棚を祠り神社の遙拜を勸奬してゐる、隨つて君は社內の先覺者であるとの位置を自覺し、飽くまでも協力一致の威嚴を張り、社衆一團となつて蕃社改善の實を擧げようとの固い希望にもえつつ日夜向上の一路を進んでゐる（寫眞は國語常用を念願する倉本君……向つて左端）

アミ族蕃婦の 心身修養道場

タバロ蕃社に建設

アミ族は古來女系であるため一家に於ける女子の位置と責任は頗る重く驚くべき勤勞力を有し、農業並に國民教育に及ぼす影響の多大なるものあるに鑑み、花蓮港廳ではアミ族女子青年の心身修養を圖ると共にその社會的活動を促進し日本婦人としての素養を與へる目的で今回女子青年道場ともいふべき青年の家を太巴望蕃社に建設することに決定、太巴望公學校女教師に委囑して之れが指導監督の任に當らしめることになつた、建物は工費一千五百圓で昨年一月起工三月末までには竣功を告げ 四月早々蕃社の女子を收容する見込であるが當分一年を三期に分ち一期を四ケ月間とし四十人宛を收容する豫定である、收容すべき女子は主として公學校卒業[illegible]



皇紀二五九六年

謹賀新年

臺北州基隆郡瑞芳庄金瓜石

臺灣鑛業株式會社

專務取締役　島田利吉

事業地
金瓜石鑛山事務所　臺北州基隆郡瑞芳庄金瓜石
臺北出張所　臺北市北門町一
竹東油業出張所　新竹州竹東郡竹東街員崠
湖口油業出張所　新竹州新竹郡湖口庄北窩
凍子脚油業出張所　臺南州嘉義郡中埔庄凍子脚

文壇の新人を評す

多士濟々、愉快な現象！

新居格

新しい年の初めに文壇の新人達に就いて語ることは極めて適當な機會であると思ふ。しかし新人の問題をどの程度に置くかによつて範圍に廣狹が生ずる。また、人により、見方によつて選擇も多少異なるものがあるであらう。かなり繁忙なわれ〳〵の生活において、新人の作品を偏頗なく目を通すことも容易なことではない。また、文藝界を廣い視野にたててこれを見、詩壇、歌壇、俳壇と云つた風に全面的に新人を紹介することになると、本稿の如き短文では到底網羅することが出來ないであらう。でわたしは思ひ出すままに數人をを記叙しよう。

高見順

高見順の如きは作家としては新人の、しかもかなり好望な人である。わたしはまだ多くをよんで居ないが『故舊忘れ得べき』を讀んだだけでも彼の力量はこれを許すことが出來やう。この作家は年を迎へて三十歳になつた、青年作家である。三十にして而して立つのに昭和十一年は彼のためによきスタートであらう。わたしは彼とは面識がある。わたしだけの印象では彼の風貌は川端康成のタッチがあると思つてゐる。若いだけに川端よりは潑剌としてゐて健康さうに見受ける。スマートな好感の持てる作家である。この作家に好きなところはかなり放膽なところ、我儘とも見える書き方をすることである。その點をわたしは却つて買ふのだ。彼の作品をよんでゐると、さすがに新しい時代の雰圍氣を感ずることが出來る。彼はよく現代の青年男女が使用すると聞く種類の表現を用ゐる。例へば『地蹈鞴を踏むみたいなことをして腰を呼ばうとしたが、仲々かなはぬことであつた』とか『來るかに見せかけて』とか『惡戲みたいな』『あんたの手、とてもつべたい（冷たいの意）んですもの』と云つた種類の言葉をとび出す。むろん女をしてキミ、ボクをも云はせてゐる。わたしは高見順の作品は上述した『故舊忘れ』（『文藝春秋』所載）と『流れある』（『婦人畫報』所載）しかよんで居ない。この作家と丹羽文雄と對照することは面白いが、丹羽は既に同様昨年は非常に活躍した作家で新人と云ふことは出來ないが高見順に昭和十一年度を登場飛躍とさせたいものである。高見は同人雜誌『日曆』の一メムバーである。

石川達三

石川達三は『星座』の同人で、その作『蒼氓』は芥川賞をうけた。わたしは石川達三その人には逢つたことはないが、その小說集『蒼氓』の芥川賞をうけた。その著作には『蒼氓』以外、『石女』『番草苑』『寂海』の三篇を集録したものである。

『蒼氓』はブラジル移民の問題を取扱つてゐる。その取材はたしかによい。今迄にだつてこの種の題材を書かうとした人は少なくはなかつた。今は殆ど筆はとらないが吉行エイスケがそれである。久野豐彦もさうだつた。中河與一の作の或る部分にもそれはあつた。『蒼氓』の作者は筆においてまた發達し切らないものがあるかも知れない。にも拘らず、好感をもつて親しませるものである。わたしはこの作者の特色を容易に掴むことが出來た。その特色は『蒼氓』『寂海』が見せてゐる。かなり視野は廣い。それだけでも石川達三の作家的立場はあると云へる。たが、この作家は特色がハッキリしてゐるだけに、取材そのものの振幅は變化等を少くしか示さないのではないかとも思へるのだ。とは云ふものの二三篇の作によつて早く以上のやうに斷定するのは實は早計であることを免かれぬ。わたしの好みからすれば、石川達三のやうな小說はすきである。好きであつて快くよむ癖に何かしら隙間とも稱すべきものを感ずる。彫られた[illegible]と云ふには[illegible]いふ感じである。

外村、衣卷、大宰

外村繁、衣卷省三、大宰治等は轡を並べて『文學界』に作品を發表してゐたのでわたしはよんだことがある。右のうち外村の作風は堅實である。そしてそれと大凡反對に縱橫無盡とも云へる豐かな才分をもつたものは大宰治である。外村の堅實真摯は愛され、リアリズムの線に沿うて進展する有望さを示すものだ。進展性を限りに見せなくとも好感はもたれる作品だ。大宰の方はそのうまさと豫想力の豐かさに讀者を驚動させるかも知れないと共に、常に好意を以て迎へられるかどうかと云ふ危惧もない譯ではない。

木山捷平

木山捷平と云ふ作家には獨特な特殊性はあるが、眼ふ世界をあまりに小さく圓に飾つたなかを彼自身の特殊な好みで雰圍氣を拵へ過ぎる。井伏鱒二に一味共通するところがないでもないが、井伏程の面白さもなければ洒脫さも足りない。

新人輩出の現象

坂口安吾、寺崎浩、大鹿卓、中谷孝雄、酒井龍輔、荒木巍、新田潤、張赫宙、藤田郁義、田村泰次郎、檀一雄、福田清人、[illegible]利夫、豐田三郎、永松定、森本忠、坂本越郎、中山義秀、淺見淵、井上友一郎、大江賢次、上林曉、竹森一男、金親清、宮城聰、三上秀吉、三波利夫、宮西豐逸、兵本善矩、湯淺克衞、寺神戸誠一等々々と云つた風に新人的地位に居る人人を[illegible]した丈けでも右の如くなるのである。ざつと思ひ出した丈けでもさうなる。新人の中に入れられて不滿を覺える人もあらうしまた入れられない不滿をもつものもあらう。

わたしはそれらの人々の個々とその作品について書く餘地は殆どない。それらの作家達はそれ〴〵の立場と作風とを示してゐる。例へば豐田三郎、田村泰次郎の如きは、[illegible]等と共に行動主義的文學作品なるものを一時指目したやうだ。大鹿卓は『野蠻人』なる題材で異彩を描き、張赫宙はその郷里朝鮮を描くに利がある。農民作品を、或はプロレタリヤ的作品を、或は心理の探求を、自己解剖さと云つた風にそれ〴〵の特異性を見せてゐる。それらの新人達がどこまで成長するか、日本の文學に新しい附加をして呉れるかは自ら別問題であるが、現在の文藝界には好望を期待される新人が相當に多いことは事實である。わたしはわが國の文藝界が所謂文藝復興の狀態にあるとは勿論思はない。またさうした狀態が近い將來に來るとも思つてゐない。新人としても好望な人達がかなりゐると云ふことと、それが文藝の盛觀を近く招來するであらうと云ふこととは必ずしも一致する觀念ではないのである。わたしは多くの新人作家達に注意はしてゐる。そして期待はもつが條件付においてである。新人としてのうまさと完熟したうまさとは決して混同しやうとは思はない。

以上新人作家達についての批評である。評論家達に就いては何が云へるであらうか。

新しい批評家

文藝批評界の新人とは一體どう云ふ人達であるか。小林秀雄、河上徹太郎、小松清、唐木順三等を新人と云ふ譯にはゆくまい。中島健藏、藤原定、保田與重郎、中島榮次郎、矢崎彈、宇山雄三、宍戸儀一その他等々と擧げ來れば涯限はない。それに誰かが云ひ出した所謂局外批評家がゐる。局外批評家は哲學なら哲學、經濟學なら經濟學においては專門を持つて居ても文藝批評には局外であるだけに、文藝批評家としては新人の部類に屬するのかも知れない。

岡邦雄、戶坂潤等はその意味での新人とも云へよう。

ここに考へなければならぬことは、批評家と云ふものの種類と性質とである。我國の文藝批評は云はば文壇時事問題の批評、文藝の月次的批評が多く、探求的な文藝の本質論が少ないといふことである。從つて、新聞の文藝欄や月々の文學雜誌によく眼を通して居れば一通りの批評家にはなれると云ふことだ。

そしてそれは新聞や雜誌が便利とするヂャーナリスチックな批評家と云ふことにもなるが、批評家はさうした行き方に甘んずべきではない。わたしはその種の批評者[illegible]きを特に批評家とは呼ばないから、その種の一列の新人批評家はカツトすることにした。

批評家の新人を考へる前に、批評そのものの新態と權威とについて考へなければならぬと思つてゐる。作品には純粹作品と通俗乃至大衆作品とがある如く、批評にも純粹批評と通俗批評とがあることは明識しなければならぬ。

眞の評論家は少い

新人作家といふ意味での新人批評家はさう多くない。『壓迫』の經驗に當選した宇山雄三の評論をよんだが、この若き批評家は鋭角において鋭くるところがあり、斷藝にかいて未だ冴えを見せるには至らないが、視野で廣質な點で買へる人である。矢崎彈は熱はあつて眼やかだがその代り明思と探求とに不足がありはしないか。

今日のところでは文藝評論をなすものは多いが、各人各說の雜論徒に激くして力と權威とを感ぜせる評論の少ないのは事實である。そのことこそ新人の評論家に活躍の舞臺を與へるのに緊要である。同時に新人評論家は如何にあるべきかを考へる必要がある。眞摯な評論家は要求されてゐる。眞摯と研究とを伴ふところの評論—單なる思ひ付きや時論ではないところの—出でよ、と云はれてゐる。月刊雜誌や每日の新聞文藝欄に退屈目もこれ足らざる議論は一時的には面白味はあつても何も後に殘らぬものである。

局外批評とか專門批評とかの名目に囚はれる必要はない。若し文藝の專門批評が日々の新聞文藝欄に現はれるものを批評したり、月刊雜誌の作品を追かけることにあるとすればそれこそ全く輕蔑さるべき試みである。その意味での批評新人は幾人かある。しかしわたしは彼等を批評界の新人としては擧げないのである。

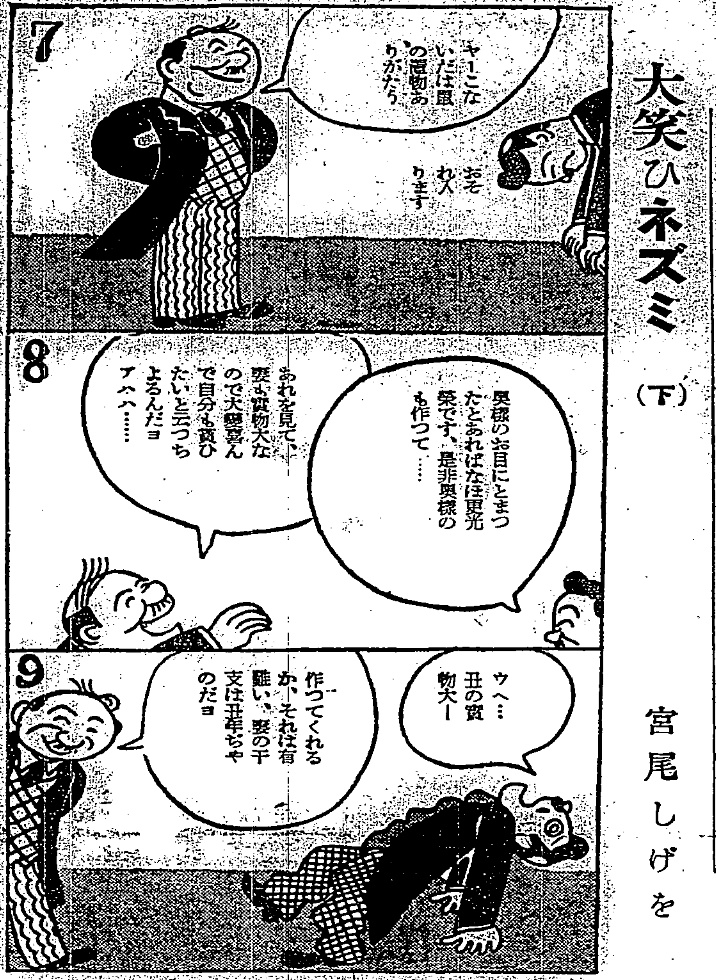
新人よ考慮せよ

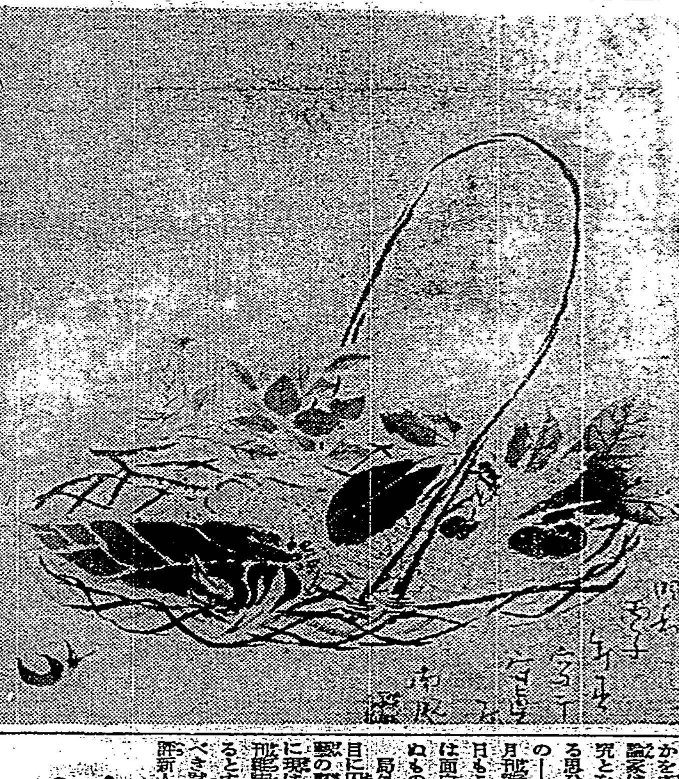
わたしは文壇の新人評をするに當つて、大衆文學や通俗小說界をも除却した。川口松太郎が大衆文學界の新しい人氣もので、横山美智子が『緑の地平線』で一躍通俗小說界の新星になつたと云ふが如きは文學界の上には決して價値する附加にはならないからである。

何れにしても我國現在の文學界は多士濟々である。そのことは全く愉快な現象である。恐らくは過去のどの時代よりも多士濟々である。しかるに、文學界自體の光輝が何故に弱いのであるか。その問題こそ、文壇新人諸君が年頭に際して一番考へて欲しいものである。

大笑ひネズミ（下）

宮尾しげを


7
ヤ！こないだは鼠の置物ありがたう
おそれ入ります
8
奧樣のお目にとまつたとあればなほ更光榮です、是非奧樣のも作つて……
あれを見て、女房が大變喜んで自分も貰ひたいと云つちよるんだヨ　アハハ……
9
ウヘ…丑の實物大ー
作つてくれるか、それは有難い、妻の干支は丑年ぢやのだヨ



新春籠　堅山南風氏畫

春はラヂオの波に乗つて（3）

放送麗人萬華鏡

邦樂の粒揃ひ連中と　ファンを魅惑する女優たち

金子千惠子（清元）

勝太郎は『小唄の元祖』であるばかりでなく、いはゆる"鶯藝者"のレコード界進出へのさきがけでありました、彼女をトップに、續きも續いたり、まるで雨後の筍のやうにあらはれた『唄ふ藝者』曰く、市丸、小稻、〆香、豆千代、等々、そして彼女たちは、入れかはり立ちかはり、ほとんど每夜のやうに、マイクロフォンから、澁い、あるひは、なまめかしい咽喉を全日本のファンに送つて居ます、國內だけでなく、勝太郎のごときは遠く海外にまで放送するといふ殷賑ぶり

小唄の盛り藝では金子千惠子、彼女は明治四十年生れの江戶つ子、多藝で本職のほかに清元もやれば常磐津も得意、舞踊もなかなか馬鹿に出來ないといひます、ラヂオは勿論、ほかのどんなところに出演する時も、三味線には彼女のおふくろの金子千代吉といふおばあちやんが控へてござつて、此のところ、まことにうるはしき母性愛の風景を展開するのが斯界の名物のひとつとなつて居ますからちよつと紹介しておきます

歌澤寅右衛門（長唄寅派家元）

歌澤では、元老格の芝金、寅[illegible]などは遠慮するとして、寅右衛門をピックアップしませう、[illegible]寅右衛門の姪だけあつて、腕もたしかなもの、明治三十六年下谷二丁目に生れ大正八年四月寅派と名乘り、以來母の代稽古をつとめ大正十二年四月、二十五歳にして五代目寅右衛門となる、——といふのが彼女の履歷、母は現在では相摸と稱し師匠、若手の花形として活躍する愛娘の姿を、さも滿足げに見守つて居ます

水藤錦穰（琵琶）

×　×

水藤錦穰に人も知る錦琵琶の家元、錦琵琶といふのは、大正十五年に、彼女が自ら創案した新琵琶の名です、錦穰、本名は中村文子、琵琶の先生は長田錦心でありました、最近では、稀なところへ嫁がありますが、一時は、女流の若手として一世を風靡するかに見えたものです、腕の確者なことに勿論ですが、それに若さと、もうひとつ、美貌といふ天惠の三拍子がそろつたのですから、それほどの名聲もまた當然だつたかもしれません、[illegible]新作品を發表して、これを[illegible]五段と稱して居ます、[illegible]明、甚だ結構ではありますが彼女をして、再び昔日の隆盛に就かしめることを希ふもの、筆者のみならんや——ではありませんか

琵琶には、ほかに、新進として田中旭穣、押田旭翠などが居ます、田中旭穣は本名田中智生、明治卅九年、熊本の舊家の家に生れ八歳の時既に琵琶を手にしたといひますから以て琵琶のほど知るべし、先生は例の有名な豐田旭穣で、昭和四年渡米、ヤンキースのあひだに大いに大和撫子の意氣をかをりをふりまいて歸りました、最も得意とするのは『青葉』『夜の雪』『[illegible]』など、ただ、彼女に大へん犬がお好きです、[illegible]家に本名しげ子、[illegible]に生れ、やはり[illegible]した、『[illegible]』[illegible]

千葉早智子（箏曲）

×　×

C・L・Pの花形女優、千葉早智子を、箏曲放送の選手として此處に擧げるとき、人あるひはいささかの意外をその面持にあらはすかもしれません、しかし、早智子は今でこそ人氣の最頂上にある銀幕の女王の一人として誰しらぬ者なきスターではあれ、その昔は千葉富子と名乘り、天晴れな箏曲の名手で、無論古いラヂオ・ファンならば彼女の妙技を記憶にとどめてゐる筈です

本邦箏曲界に特異な地位を持つ俊才宮城道雄の最もよきパートナーである尺八の大家吉田晴風が、彼女の養父であることも周知の事實、最近では、映畫の仕事の餘暇を專らピアノ、ダンスの稽古にあててゐる[illegible]いつの事やら、此のところ一寸見當がつきかねます

聞くところによれば、P・C・Lでは、入社以來の彼女の健鬪に報いる意味で、近日、彼女をアメリカに派遣、映畫行脚をさせるとか、箏曲に於て彼女を失はうとも、吾吾は、更に輝かしい彼女の活躍を將來の銀幕の上にふんだんに目にすることが出來るでせう

女優の部

邦樂はこれ位で切りあげるとして、變つたのは映畫物語、ラヂオドラマなどによつてファンを魅惑する女優たち、便宜上、映畫の部と舞臺の部を一まとめにして見わたしてみると、先づ水谷八重子、夏川靜江、入江たか子、岡田嘉子、及川道子、[illegible]などが居ます

中で、光つてゐるのは何といつても水谷八重子、やれ萬年處女の何のかのといふ口さがない都雀の囀りを尻目にかけて今や押しも押されもせぬ舞臺女優のピカ一、藝術座の總帥です、よき師であり相談役であり保護者であつた兄竹紫氏を他界に送つて、或は落目かと氣づかはせたけれど、心配御無用八重子の腕益々冴えて、依然ピカ一たるの貫禄を失はぬところ、八重子ファンならずとも一應の敬意を表さずには居られません、舞臺女優といへば

入江たか子（映畫劇）

築地小劇場華やかなり[illegible]、今日に至るまで新劇運動のために努力[illegible]しつつある田村秋子も大切な存在、日活のスターから東寶の舞臺へ、あでやかな轉向ぶりを見せた夏川靜江は、ちやうど[illegible]といふところ、[illegible]入江たか子に[illegible]ことにかけても斯界第一、聲も顔のやうに美しくやさしいものだけれど、トーキーに見る彼女は、サイレントの場合よりはずつと見劣り（顔劣り？）がするといふのが一般の風評です、何にしても此のお姫さま、あまりに浮世の風にあたらなさすぎる、もつと揉まれ叩かれれば彼女の演技も、必ずやその容姿の如く秀拔なものとなるでせう

岡田嘉子と及川道子は、一人はいはゆる年增に近く、他はまだ少女期を出て間もないといふ相違、更に役柄において一人は妖婦型、他は純情可憐な娘型といふやうなちがひはありますが、どこかに共通したものを持つてゐます、それは、いはばインテリ・タイプといふべきもの

尤も此のインテリの意味たるや筆に比較的たくさんの本を讀むといふ程度にすぎないのですが、岡田嘉子はテアトルコメディが有する唯一人の輝ける女優です、ラヂオへは、たしかまだ一度出演しただけ、[illegible]コメディの[illegible]、その演技者もまたその[illegible]ないかに一にかかつて[illegible]の實力にあるといつても[illegible]言ではないでせう（筆子記）

歴史のユウモア（中）

新春の笑ひ

生方敏郎

痘瘡が日本へ渡來した初まりは平城朝の初期か、それよりもつと以前の事か、兎に角支那と交通が頻繁に成つてから後の事と思はれる。

鎌足公の孫、即ち不比等の子供は、三四人迄も働き盛りのところで、此病にかかつて死んだ。當時日本全國にわたつて流行を極めたのだつた。

之に罹つた人々の方からすれば悲劇だ。之を免れた人々の方から新たに出來たアバタ面を見たら、氣の毒でもあり可笑しくもあつたらう。初めて見たアバタ面だからまさか笑ふこともなるまいが、クスグつたい心持でゐたことだらう。

○

史書は執筆者の態度が餘りに眞面目で、時には官報みたいなものになつてゐる。潤色の無いのはいい事だが、敍述も蠟を嚙むやうに無味乾燥なのが多い。偶々面白く讀めると思ふと、平家物語、源平盛衰記、保元平治物語、義經記、太平記など、史書といふより小說に近く、歷史といふ方面からは全くアテにならない。併し、此物語本にはユウモラスな事件や敍述が、幾何にも澤山ある。執筆者の態度が餘裕綽々としてゐるからだ。

平治物語の中に、[illegible]淸盛が[illegible]兵に攻め寄せられて、[illegible]て甲を[illegible]向ふきに着ることと[illegible]してあ[illegible]されると、『主上の御前にて[illegible]ますからだ。』と[illegible]ことになつてゐる。[illegible]し、それは[illegible]に從つて[illegible]關係から考へると平治物語作者の想像記事であるらしい。此物語の書かれたのが鎌倉幕府時代だつたから、源氏に媚びるために平家をバカにしてみせたに過ぎない。

あの平治の亂には、淸盛は戰場に立たず、專ら重盛と賴盛を大將軍として差し向け、自分は六波羅に在つて主上警衞の任務に就いた。あの時重盛と賴盛が退却したのは、まけて逃げたのでなく敵を大内から誘き出す戰術だつた。それとは知らず惡源太が勝ちに乘じて追ひかけたので、義朝は心配しつつ進軍し、振り返つて見ると其間に大内を平家に乘つ取られ、遂に退谷まつて決死的に六波羅に迫り、そこで文源の頽敗に裏切られ、いよいよ戰死と覺悟して河原を渡つた時には、其兵纔に二十騎にすぎなかつた。

それ以前、すでに大内裏取の捷報は六波羅に來てゐたのだつた。淸盛は義朝が館の近く來たと聞き、門邊まで出かけたが、それは一寸見物といふ態度だつた。平家の方に大兵を[illegible]してゐたのである。[illegible]から淸盛は[illegible]しの鎧を著て[illegible]に[illegible]かり、全[illegible]づくめで大音[illegible]に[illegible]出かけたので、決して危い[illegible]る必要がなかつた。それにとどめ時には餘裕があつたの[illegible]コベに[illegible]るまでには敵を[illegible]れてには目なかつた。そんな失策の代りに、[illegible]家の[illegible]の一つも[illegible]いたかも知れぬ。

歌かるた

柳原[illegible]子

むかし女ごこと偽りありなしをほどよくせよと歎へられけり

老女の部屋に呼びつけられ、おど〳〵とした目を伏せて、たとへば小羊の樣に坐つてゐる若い人、それは近頃やうやく田舍の高等女學校を卒へて上京したばかり、ここの御殿に勤めてゐる女中、さうは云つてもすばらしく大きな御殿の中、親共が名譽がつて差出したのなれど、若い人が老女から叱られてゐる、その言葉『貴女は何で昨夜かるたのお相手に、奧方樣をお負かししたんです』

『つひ御前にありましたのに手を出しまして、目に入つたもので御座いますから』

『御前にあると目についたなら、その邊は決して見るのではありませぬぞ、その時はまるで見當違ひのところを、あれやこれやと探がすものです、それが即ち御奉公といふもの、よう、これから愼んでゐなされや』

街に散る花（19）

竹田敏彦作

寺本忠雄畫

追憶の十字架（十）

『大濱さんぢやありませんか』

二雄は、路上の月光に照らされた美香里の方を覗くやうに答へたが、傍に楠山の姿を發見すると

『何うかなさいましたか』

吾かしげに訊ねた。美香里はちよつと答へに困つたが、瞬間、楠山は、意外な相手の出現と、取鎭るやうな美香里の態度に、まるで冷水でも浴びせられたやうな、間拔らな顏を歪めて

『失禮します……』

美香里の袖を放して身を退くなり、恨めしげな一瞥を殘して、逃げるやうに立去つた。その後を、美香里も、濟まない氣持で見送つたが、

『何うしたんですか』

二雄の、重ねての質問に、

『困つてゐましたのよ』

美香里は、氣を變へて、につこり見上げた。そこへ一明も顏を出して

『おや……まあ、お上りなさいよ』

氣さくに勸めてくれた

『お邪魔ぢやありません』

『どうぞ……すぐ開けますから』

美香里は偶然の幸運に、胸を躍らせながら垣根の開くのを待つた。間もなく、格子戸の中が明るくなつて映つて

『さあ……』

一雄の顏が覗いた。美香里は、二人の生活振などを想像しながら導かれるままに、階段を上つていつた。

部屋は小綺麗な八疊で、二人の机は、表通りの窓際に仲よく並んでゐた。

が、そこらあたりに澤山の書籍が、引越の準備でもあるやうに窓際で[illegible]にも荷造されてゐるのに、美香里の眼は强く惹かれた。

『あら、お引越ですの?』

美香里は心配で、訊ねずにゐられなかつた。

『ええ、階下の家が、[illegible]へ移轉しますので』

『あら、[illegible]、皆さんは?』

『いい家がないか、[illegible]してゐる所ですがね』

咄嗟、美香里は、この兄弟が、自分の家の二階へ來てくれたら——こんな空想を描いて心で微笑んだ。

暫らく、とりとめもない雜談の後に、二人は途中まで見送つて、美香里を家まで送つてくれることになつた。家へ着くと

『あのお茶でも……』

美香里は、門口から引返さうとする兄弟を、一生懸命で引留めて、座敷へ通じた。[illegible]

『ねえお母さま、林田さまは、いい家へ下宿を搜してゐらつしやるんですつて。ねえ、私の家の二階へ來ていただけないかしら』

先刻の空想を思ひ切つて打明けてみた。

『でも、お前のやうに友達が多勢遊びにきては、お喧しくて』

久代が正直に言ふのを

『あら、だつたら私、お友達の訪問なんか、みんな斷つてしまひますわ』

小娘のやうに赤くなつた。久代は笑顏で見たが、すぐに娘の氣持を汲むやうに、

『でも、いかがでせう、お宜しかつたら、二階の六疊と八疊とが遊んでゐますから、お使ひ願へませんでせうか、お食事も、家のお惣菜で召上つてくだされば、私の方はちつとも差支へございませんが……』

年頃の娘を持つた久代の眼も、秀でた林田兄弟の人柄に惹かれてゐた。二人は意外な成行に、[illegible]くもぢもぢしてゐたが、

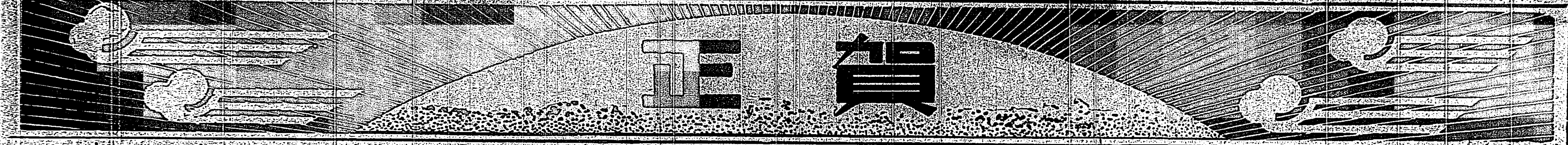
『私の方も御覽の通り女ばかりで誠に淋しくて困つてゐますし、願つたり叶つたりでございますが……』

重ねて熱心に勸められて、一明は、二雄を顧みたが、

『ではお言葉に甘へまして、お世話になりませうか』

『あら、嬉しいわ』

美香里は飛立つやうに、聲はず洩らした。これが彼女の生涯に大きな十字架を背負はせる、悲劇の發端にならうとは知る由もなく……。



池田好治
今道定治郎
新見喜三郎
土井豐吉
大類龜治郎
渡邊喜三郎
田村作太郎
園部良治
浦田永太郎
藤江醇三一
神戸駒郎
江原節郎
手島政男

臺北市北門町（電話壹參四番）
やけず　さびず　くされず
アスベストセメント製　浅野スレート
浅野スレート工事部

臺北市榮町三丁目
歐米直輸入　羅紗絹布　諸官衙御用　裏地附屬品　新型洋服
高級既製品各種
古川洋服店
店主　古川正義
電話一七八六番

臺北市京町一ノ二八、三九、四〇
男女洋装及服地專門店
古川義商店
店主　古川義光
電話[illegible]番

クラブ化粧品　カテイ化粧品　クラブ高級化粧品　クラブ特定化粧品
總代理店
神木洋行
臺北市京町
電話[illegible]

株式會社
櫻井組
臺北市北門町七番地

米穀肥料商
杉原商店
臺北支店
臺北市北門町七

和洋諸紙　歐米文具　測量機械　製圖用具　洋畫材料一式　活版印刷　石版印刷　印刷工場
合名會社
小塚本店
臺北市榮町二丁目十九番地
電話[illegible]
振替口座[illegible]五五番
小塚本店印刷工場
臺北市京町二丁目四十三番地
電話九七七番

各種人蔘　馳名丸散　生熟藥材　特色飲片
西瀛公司
臺北市永樂町二ノ八七番地
電話[illegible]

矢野果物店
臺北市本町二ノ四九
電話三二壹三番

臺灣物產
平野商會
臺北市榮町　電八七一番

臺北市宮前町
合資會社
日光商會
電話五五貳番

茶商
富貴園
臺北市新起町二ノ一七
電話六七六番

鼎新醫院
臺北市太平町二ノ四二
院長　翁瑞春
電話五五九番

常磐信託商會
臺北市大和町二ノ五
電話七一九番

ラヂオ機械
中川章輔商會
臺北市本町四丁目
電話二四六番

東陽製菓部
臺北市京町三
電話六四二番

東陽物產商會
電話三六〇番

製帽專門
カメダ帽子店
臺北市本町一丁目二十五番地
電話一八五番
振替口座五八九番

臺北名物
メロー商閣
臺北市京町一丁目
電話貳參貳五番

ヒコウ靴製造發賣元
ヒコウ商會
臺北市若竹町一ノ七二
電話五七

スズキ自動車商會
臺北市佐久間町二ノ角
電話七四番

高級貸切
倉橋自動車商會
臺北市錦町二ノ八
電話二四九〇番

富士屋菓子舖
臺北市榮町二丁目
電話六四七番

高砂菓子舖
臺北市兒玉町一丁目
電話二一九五番

富士屋製菓工場
臺北市榮町二五四ノ三

臺北
湯屋組合

佐土原吉雄

合名會社
山田商店器械部
營業科目（[illegible]）
臺北出張所
臺北市本町二ノ四二
電話二七〇八番

大塚合名會社
臺北市上奎府町二丁目
電話二八三番

賀正
東光
藥品　油脂　工業材料品　貿易
石鹼　油脂　農業藥品　製造
東光株式會社
專務取締役　八十川清
臺北市綠町三丁目二十一番地
臺南市港町一丁目一七四番地
大阪市西區京町橋南海晒粉ビルディング

除蟲粉蚊取線香發賣元
帝國除蟲株式會社
臺北市新起町二丁目
電話五壹四番

神戸精肉直移入
田伍作牛肉店
臺北市西門市場
電話[illegible]七番

網目銅版　亞鉛凸版
宮本製版所
臺北市老松町二丁目二十四番地

專賣局、電信局、各學校、御指定
高等官服　各學校制服　[illegible]　調進
升川洋服店
臺北市榮町二丁目
電話二四四番

測量師　庭園師　勞力請負
園田充直
事務所　第一農園　第二農園　第三農園
臺北市川端町[illegible]

賀
建築材料商
金森商會營業部
臺北市樺山町樺山ビル一階
電話九五七番

正
樺山ビル、アパート
電話[illegible]

BKOラヂオ映畫　松竹キネマ作品　パラマウント映畫　[illegible]
臺灣第一劇場
臺北市太平町四丁目
電話一九五三番

謹賀新年
臺北
榮座
電話一五一番
タイゲキ
電話一三〇五番

新原佐吉

發賣元
臺北
南門藥局
電話　一五六三　二五九四　四二四三番

腹痛の妙藥
特製　**福腸妙散**

風邪の妙藥
のみやすき　**福福カゼ藥**

諸官衙御用達
臺灣總督府交通局鐵道部　臺北魚市株式會社　林兼商店漁業部　共同漁業株式會社　日本水產株式會社　日本食料工業株式會社　基隆各手繰船鮮魚　各地鮮魚取扱店　專屬
野田運送店
貨物自動車部　臺北市京町一ノ四
中央市場前　電話五貳六番
基隆市濱町　自動車部出張所

臺北驛前
臺北
運輸部
電話壹四九四番

ミツ★
看板とネオン
臺北市太平町二ノ七

英國香港屈臣氏會社總代理店
神農氏大藥房
巫世傳
臺北市永樂町　電話三五七八番

山陽木材防腐株式會社
臺北出張員　濱本勝美
高雄出張員　筒井出衛

公認
臺灣クリーニング合資會社
森井昇平
臺北市三橋町八番地
臺北市建成町三ノ一
電話[illegible]

臺灣赤糖聯合會
臺北市建成町三丁目三番地

虎標
萬金油
八卦丹
頭痛粉
常備可　聖藥　治百病
臺北市太平町三丁目八六番地
虎標永安堂臺灣分行　蛟記
電話一八九三　私書函三十三號

石炭採掘販賣　年產七萬噸
永興炭礦公司
發熱量六八〇〇カロリー以上　灰分九%以下
張聰明
事務所　臺北市宮前町九〇
礦山　臺北州文山郡[illegible]

臺北市內著名醫院案內
：順序不同：

内科　**山崎醫院**　台北市榮町二ノ十　電一〇七番

齒科　外科　**杉山齒科醫院**　台北市京町二ノ二四　電二七三二番

内科　**赤木内科醫院**　台北市本町三ノ一〇　電五四九番

肛門病科　性病科　**臺肛門病院**　台北市表町二ノ十　電八八六番

齒科　**藤井齒科醫院**　台北市明石町二ノ一　電三三九八番

内科專門　**吉田醫院**　台北市築地町一ノ五

耳鼻咽喉科　**宮島醫院**　台北市京町二丁目　入院室完備　電話二六六四番

内科　外科　**板谷醫院**　台北市榮町一ノ九　電二三五三番　入院隨意

内科眼科　**大竹醫院**　台北市本町二ノ二　電一一五〇番

齒科　**大原齒科醫院**　台北市榮町四丁目　日日社前　電話一〇九四番

齒科　**小林齒科醫院**　京町二丁目一番地　電話八八二番

齒科　レントゲン科　**清水齒科醫院**　台北市西門町一ノ六六（芳乃館前角）　電話六七八番

皮膚科　泌尿器科　外科　**三舩丸醫院**　台北市表町宝通り　入院應需　電話二八五番

齒科　**矢野齒科醫院**　若竹町一ノ三（市バス若竹町下車）　電話四三三番

内科　小兒科　**樋詰醫院**　台北市本町二丁目三番地　入院應需　電話五四七番

耳鼻咽喉科　**藏田醫院**　本町二丁目（博物館横）（入院隨意）　電話三八七番

小兒科　**關屋醫院**　京町一丁目五二（入院隨意）　電話一六七二番

耳鼻咽喉科　**天野醫院**　榮町一ノ八（入院隨意）　電話二〇二番

内科　**秋山内科醫院**　台北市京町一丁目（入院室完備）　電話三九八

小兒科　**松山醫院**　榮町二丁目六　電話二五四〇番

外科　**大場醫院**　京町二丁目（入院隨意）　電話二九八〇番　大場辰之允

内科　皮膚科　性病科　**千本醫院**　台北市京町一ノ三五　電四八一（入院隨意）　醫學博士　千本信次

小兒科　レントゲン　内科　**大磯醫院**　台北市京町中通り　電話六四六番　病室完備　醫學博士　オホイソトモアキ

産科　婦人科　**鶴田醫院**　京町二丁目宝通り（入院隨意）　電話二九七番

外科　**菅沼醫院**　本町三丁目（入院應需）　電話九五四番

眼科　**塚原眼科醫院**　台北市表町一ノ八　電話三五三番　鐵道ホテル正門前（入院隨意）　醫學博士　塚原[illegible]夫

一般外科　皮膚科　泌尿器科　X光線科　**一番瀬醫院**　本町二丁目　電七八九番

小兒科　**武藤醫院**　表町一丁目三（中澤隣り）（入院隨意）　電話一八五九番

外科　肛門病科　X光線科　**菅野醫院**　台北市本町三丁目宝通り（病室完備）　電話五〇六番　醫學博士　菅野尙夫

内科　小兒科　**内藤醫院**　台北市新起町三丁目　電二七七番

産科　婦人科　**福田醫院**　台北市大和町一丁目宝通り　入院室完備　電話二四九七番

榮光輝く新春に宮中で新年の御賀宴
文武百官を召されて

【東京五日發】新春の五日宮中では内外の文武官八百名を召されて多幸に充てる榮光輝く昭和十一年を壽がれ御恒例の新年御賀宴を張らせられた、光榮の御召しに浴した駐日米國大使グルー氏以下外國使節、岡田首相以下の各大臣、[illegible]、[illegible]宮中席次第一階より第十八階に至る

文武官

文武官は午前十一時過ぎ大禮服又は正裝にて宮城へ晴やかに參內、式部官の誘導で豐明殿を中心に設定めの席に夫々着席天皇陛下が出御を待ち奉った、かくて君ケ代の奏樂に[illegible]式部長官の御先行にて天皇陛下には[illegible]殿下、鈴木侍從長以下を從へさせられ豐明殿正面玉座に着御、玉音朗かに勅語を賜ふ、優渥なる勅語を賜はれば岡田首相は

玉座前

に進み群臣を代表し、またグルー駐日米國大使は外國使臣を代表して夫々奉答辭を奉り御機嫌に入らせられた、陛下には御杯を擧げさせられ諸員にも亦酒饌を下賜、諸員は[illegible]を聽き奉りつつ宮殿內臣の[illegible]年の始めを壽ぐ[illegible]樂に[illegible]御興を添へ奉るうち[illegible]拜觀して君臣和樂の裡に酒饌を頂戴し、午後零時五十分陛下入御、諸員は何れも皇恩の厚きを感謝しつつ午後一時近く退下した

勅語と奉答文

【東京五日發】五日の宮中新年御宴において賜はりたる左の如き勅語を賜はつた

勅語

新年ノ佳辰ニ當リ祝宴ヲ開キ各國代表者並諸大臣等ト此ノ歡ヲ偕ニスルハ朕ノ欣悦トスル所ナリ茲ニ友邦ノ元首ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ益々親密ナラムコトヲ望ム

◇

【東京五日發】勅語を賜はりたるに對し奉り岡田首相は謹んで左の奉答辭を奉つた

岡田首相奉答文

茲に新年の佳辰に方り臣等を御宴に召され且つ優渥なる勅語を賜ふ臣等感激の至りに堪へず臣啓介群臣に代り聖恩の厚きを謝し謹で寶祚の無疆を祈り奉る

◇

【東京五日發】勅語を賜はりたるに對し奉り外交團を代表して米國大使グルー氏は左の奉答辭を奉つた

外交團代表奉答文
米國特命全權大使
ジョセフ・グラーク・グルー

陛下

陛下より賜はりたる優渥なる勅語に對し外交團を代表し陛下に至深の謝意を致すは本使の光榮とする所なり本使等の代表する各國元首に於ても亦陛下の勅語に對して深く滿足せらるべきことと信ず本使等は新年に際し至誠なる祝詞を陛下に致すと共に衷心より陛下、皇后陛下、皇太后陛下及皇族各殿下の御健康を祈り奉る尚ほ本使等は帝國の安寧及其國民の福祉並日本國と其友邦との交誼親善の益々[illegible]陛下の治世の隆昌にして悠久ならんことを懇禱す

皇太后陛下宮城へ

【東京五日發】皇太后陛下には新春の御挨拶御交換の爲め五日午後一時四十五分入江皇太后大夫以下を從へさせられ大宮御所御出門宮城へ御參內、天皇、皇后兩陛下並に皇太子殿下、[illegible]方と御對面御挨拶御交換の後初春を壽ぎの御團欒あらせられ同四時三十分宮城御出門大宮御所へ還啓遊ばされた

六回までリード臺南遂に敗る
立教軍は終回近く攻撃の威力を發揮

立教	010001255A	3-14A
臺南（先攻）	100101000	

【臺南電話】立教大學對臺南團野球試合は五日午後二時一分から臺南球場にて臺南先攻で開始、球審小口氏、壘審大槻、八幡、宗正の三氏、午前中の小雨にグラウンドは程よくしめりどんより曇つてコンディションは絶好、觀衆は外野スタンドにも溢る盛況であつた、試合は先攻の臺南團一回立教有村投手の制定まらざるを利して一點を先取したるを始め四回、六回にも各一點を加へたに對し立教は二回臺南二壘手のトンネルにより五回には三壘手の失策で危く各一點を返して六回迄三對二臺南優勢に進んだが、六回裏一死後有村左前安打に出る立教のチャンスは二死後寺內の中前安打杉田敬遠の四球で滿壘となり、次打者黒田の適時三遊間安打で堂々たるアーンドランで二點獲得、四對三と始めて試合をリードしたるに勢を得、七回よりエース景浦渡邊以來の初マウンドとなつたるにより試合は或はこの儘決せられるかと思はれたが前半奮投を盡して健投した兒玉投手の球威七回には既に全くその影を失ひ、鈴木のリリーフも代り榮えせず、之に反し立教は恐るべき攻擊の威力を發揮し遂に十四對三のスコアで強豪臺南團を破り午後四時八分終了した、試合は臺南が完全に立教の軍門に降つた外何者もなく六回臺南がリードを立教に奪はれる迄の兒玉投手の好投と終回近くの立教の猛打が印象に殘るのみであつた

立教　[illegible]
臺南　[illegible]

立教　41　12　1　4　3　7　11　1
臺南　29　6　2　2　2　8　9　7

試合時間、二時間七分
二壘打　杉田（立）
併殺　浦田、北原、黒田（立）　田部、黒田（立）
逸球　杉原（臺南）

臺南消防新年宴會

【臺南電話】臺南消防組では五日午後六時から鶯遊閣に新年宴會を催したが今川知事以下官民多數出席した

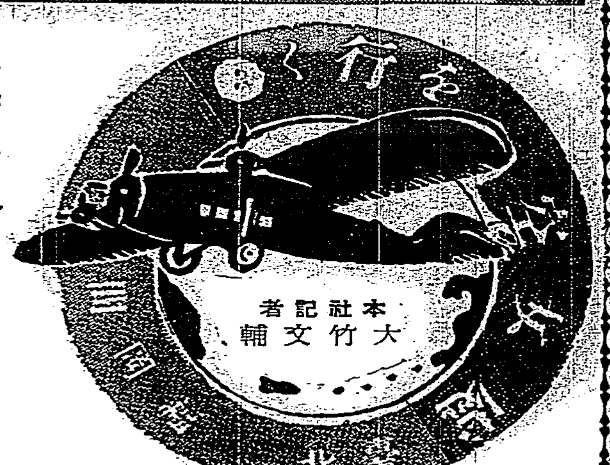
馬公の陳情團五日夜出發
激勵的見送の裡に

【馬公五日發】馬公港が既報の通り近く軍事上の理由によつて廢止さるべき運命にあるので、澎湖としては自立自存の上に之に代るべき地方施設事業を起されん事を督府に陳情すべく五日夜三浦馬公街長以下各庄長は多數官民の激勵的見送り裡に出發した、陳情內容は次の如くである

一、澎湖水產補修學校の程度引上げ並に擴張の件
二、馬公漁港施設促成の件
三、望安庄大嶼に漁船避難港築成の件

尚陳情員一行は十一日歸著の豫定

航空路中唯一の勝景
不知火海にかけ一島原海灣のな[illegible]



本社記者　大竹文輔

[illegible]

…トを自動車で驅けつける。二月市の街を過ぎる頃から雪は消えた。

飛行場に着くと六時四十分。四十萬坪の飛行場が、一面に眞白い霜の花となつて居る。

けふ、下り便第一回に就航する「しらさぎ」號は、早くも格納庫から引き出され、强烈なアーク燈の照明を浴びつつ、地上勤務員の手で點檢が行はれて居る。

激しい寒氣に手足が、しびれさうだ。

午前七時、記者の搭乘を待兼ねたやうに、客室に入ると、もう滑走し出した。

車輪にくだけて散る霜柱が、まるで雪のやうだ。二百五十米の滑走で離陸した。

ぐんぐん上昇旋回[illegible]コースを東に定めた[illegible]

[illegible]

「阿蘇山の雄大な地形を理解するのには、これを遠望するより外はない」と云つて居る。

全く、うまいことを云つたものだ。

阿蘇火山の裾野は、東西南北、各々二十粁に及んで居て、富士山にも見られない男性的な壯觀さがある。

噴出物で出來たといふ淺野原が高低起伏して大きな波のやうに連り、裾引く空の上には、根子嶽、高嶽、烏帽子嶽、杵島嶽、外輪山がつらなつて、大阿蘇が世界に誇る雄渾無比の眺望が、一と目に眺めつくすことが出來た。

機は田原坂の上空から島原半島に出た。

油を流したやうに靜かな有明海と[illegible]

[illegible]

天草群島が、はるかにかすむ。昔の語り草となつた數々の話題は、しばらく措くとしても、今もなほ、到る處に高い天草女の名聲を思ひ出さずには居られなかつた。

島原海灣から不知火海にかけた變化の多い眺めは、雁內定期航空路中で唯一の景勝地である。

雲仙山を拔きん出て、白雪をすつぽりかむつた一千四百二十二米の白雲山を左に眺めながら、機は追ひ風を背にして珍しくも二百粁の時速で、九州の西岸をかけて居る。

眼下には粉雪をかぶつた[illegible]がお化粧してゐる小山が覗く。

山の段々畑も雪の吹き溜りですつかり、冬山の姿をこらして居る。

はるかに白雪を被つて聳えてゐるのは霧島の連峯である。

高千穗、韓國、この二つの秀峯を一直線に結んだ線上にひらけてゐるのは新燃、中岳、白鳥、[illegible]

[illegible]

（寫眞は機上から見た[illegible]路九十九島）

大相撲の新番附
春場所は十日から

【東京五日發】大日本相撲協會では來る十日より十一日間兩國國技館に於て華々しく春場所大相撲を興行する事になり、五日早曉恒例の如く大鼓を廻し、同時に左の如く番附を發表した

△東方		△西方	
横綱	玉錦	横綱	武藏山
大關	男女ノ川	大關	清水川
關脇	大潮	關脇	鏡岩
小結	綾昇	小結	高登
前頭	出羽ノ花	前頭	旭川
同	笠置山	同	巴潟
同	双葉山	同	番神山
同	磐石	同	瓊ノ浦
同	出羽湊	同	新海
同	松前山	同	幡瀬川
同	海光山	同	綾川
同	和歌島	同	大邱山
同	土州山	同	富ノ山
同	筑波嶺	同	駒ノ里
同	金湊	同	楯甲
同	桂川	同	大八洲
同	九州山	同	防長山
同	三熊山	同	玉ノ海
同	錦華山	同	綾錦
同	射水川	同	伊勢ノ花
（以下十兩）		張出小結	能代潟
前頭	天城山	（以下十兩）	
同	太刀若	前頭	五ノ島
同	加古川	同	大浪
同	磐城	同	星甲
同	綾若	同	照錦
同	谷ノ音	同	常陸山
同	隆昊錦	同	青葉山
同	鯱ノ里	同	越ノ海
同	九紋龍	同	[illegible]
同	北海	同	國光
同	松浦潟	同	錦谷
同	前田山	同	荒駒
同	源氏山	同	龍王山
同	神威山	同	秋田嶽
張出同	出羽嶽	同	秋ノ海

お相撲さんの猛稽古（寫眞は出羽の海部屋にて、取組んでゐるのは右が武藏山、左が立直山）

宜蘭の出初式

【宜蘭電話】宜蘭消防組の出初式は五日午前八時公會堂前に擧行、臺北から石川警務部長、宇野警務課長臨席、宮城遙拜後砂田組長の人員報告、東警察課長の訓示、ポンプ操法、課長の訓示、田中郡守、石川警務部長の知事代讀、[illegible]、砂田組長の答辭、[illegible]組員の勇壯な梯子乘り消火演習を演じ同十時閉式した

百二十餘騎轡を列べて遠乘
柳川軍司令官を初め

第六十七回臺北遠乘會は五日華々しく擧行、會するもの柳川軍司令官、磯田守備隊司令官、荻洲參謀長、外事課長、[illegible]部長、學務課長その他部員新聞記者學生隊等百二十騎、四班に分れて午前八時半小雨降る山砲隊正門を出門總督官邸橫を經て御成街道に出で午前十時內湖公學校に少憩の後松山飛行場を經て御成町に出で十一時半[illegible]着、午餐を共にして盛會裡に散會した

基隆の初火事
出初式の日に

【基隆電話】基隆にかかる消防出初式の五日偶然初火事があつた、場所は市內旭町三ノ二六カフエーボ[illegible]

臺南聯隊が深夜に市街戰
非常呼集を行つて

【臺南電話】明治十五年一月四日の軍人に對する勅諭御下賜を記念する爲め臺南第二聯隊では五日午前零時半營內各隊の非常呼集を行ひ第一第二大隊對抗夜間戰鬪演習を實施したが同二時より壯烈なる市街戰に移り砲聲殷々として市民は時ならぬ銃聲に呼び覺まされ實戰その儘の市街戰を見物せんと未だ明けきらぬ街路上には多數の見物人が見られた、斯くて同四時半演習を終了したが時節柄一般民衆の氣分を緊張せしめ好話題として囃されてゐる

基隆の消防出初
五日公會堂廣場で

【基隆電話】基隆消防組出初式は小雨そぼ降る五日午前八時半から公會堂の廣場にて組員六十八名整列、君が代ラッパ吹奏裡に國旗掲揚、宮城遙拜、土居組長の令旨奉讀の後、放水ポンプ操法、梯子乘り等の演習に次いで海岸に整列した高櫓に火を放ち花々しい消火演習を行ひ、高橋署長の訓辭、十年以上勤續者多田、廣本、野中、蔡の四君に表彰狀を授與し、野口知事の訓示、來賓桑原市尹、渡邊要塞司令官の祝辭、知事、市尹、水陸兩署長より酒肴料授與、組長の答辭あつて同十時閉式、本年から町廻りを止め市役所、兩警察署前にて梯子乘りを演じ解散したが軍官民三百餘名の來賓あつてさかんな出初式であつた、同夜は吾妻にて恒例の新年宴會が催された

高千穗丸入港

【基隆電話】新春第二船高千穗丸は五日午後零時半基隆に入港したが總乘客二百五十四名、知名者は機械學會出席の東北帝大工學部長宮城音五郎博士、住友金屬工業社員石川登喜治博士、東洋紡績重役服部[illegible]、日本大學教授淺川勇吉、大阪汽車會社員池木隆、三菱造船社員高見和平、[illegible]の七氏で長閑な入港であつた、宮城博士は代表して語る

通俗味を加へ工業の宣傳
機械學會出席のため來臺の宮城博士談

學會は六日から臺北で開かれる臺北帝大、臺南高工で講演會をやることになつてゐる、十七日基隆發の瑞穗丸で歸る、臺灣出席の人は十三名、機械學會は內地では毎月一回やることになつてゐるが北海道、朝鮮、臺灣等は不定期でこれからどんどん盛んになつて行くだらう、我々は此の學會によつて純正學說ではなく多分の通俗味を加へて大衆教育の爲め工業の宣傳開發に努めんとしてゐるものである

機械學會講演
會は六日

六日午後六時から鐵道ホテルで機械學會地方講演會が催される、多數來聽を希望すると、講演者及び演題左の如し

金屬材料の疲勞と疲勞の研究の概說　淺川勇吉
化學工業と金屬材料　石川登喜治
流體力學上に於ける大小觀念　宮城音五郎

嘉農優勝す
全島中等選拔野球

【臺中電話】第四回全島中等選拔野球大會決勝戰は南部嘉農と北部の臺北一中の間に四日午後二時三十八分より臺中水源地にて野球ファン注視裡に[illegible]於て北一中先攻にて開始四回[illegible]は同點で[illegible]シーソーゲームを演じたが、四回に投手[illegible]に交代せしめて却つて[illegible]回二點、七回一點に五點を奪取されて勝敗既に決し、十一對三で北一中[illegible]勝敗は再び嘉農の得る所となり[illegible]時半試合終つて入佐委員長[illegible]に優勝旗及び知事カップ[illegible]をなし盛會裡に大會の幕を[illegible]

河部五郎一座は六日から千秋樂

[illegible]

本社から臺高ホッケー部に祝電

[illegible]

天勝[illegible]

[illegible]

四條隆英男

【東京四日發】貴族院議員元商工次官男爵四條隆英氏は先般來病氣療養中のところ二日午前九時[illegible]町の自宅において逝去した、享年六十一。故四條男は明治九年一月生れ先代隆平男の養子となり四十四年家督を相續し襲爵、明治三十七年東大法科政治科を卒業し農商務省に入り農商務書記官、工務局長、商工次官に歷任、[illegible]

臺中の火事

【臺中電話】二日午後八時半頃臺中消防組の警鐘がけたたましく鳴り響いて新年氣分に醉ふ臺中市民を驚かせた、臺中市櫻町四ノ五十木材商[illegible]方より出火[illegible]消防組が駈けつけ[illegible]大事に至らず消し止めたが、原因は前夜客の捨てた煙草の吸殼から[illegible]と判明した

老回々教徒がきのふ來臺

【基隆電話】比律賓フイリッピン航路しかご丸は五日午前十一時同より基隆に入港したが、同船では[illegible]山岡光太郎氏と六十餘歲の[illegible]イスラム運動[illegible]世界各地を飛び廻つてゐるといふ變つた人物がやつて來た、[illegible]上陸後本島[illegible]豫定とのことである

漁船が顚覆して九名遂に溺死
船體に縋り付いた二名だけ救助さる

【[illegible]電話】[illegible]四日午[illegible]面より高雄に歸港した高雄市[illegible]四ノ二三手塚小三郎所有發動機船[illegible]金寶丸が[illegible]東吉嶼[illegible]航行中同日午後一時頃同海上に於て猛烈なる北風に煽られ大波をかぶつて顚覆し船長外漁夫八名は激浪に呑まれて行方不明となり船體に縋りついた二名が[illegible]救助されたが、同船は[illegible]行方不明となつた吉成丸乘組員の氏名は詳細判明しないが生存漁夫の語る所を綜合すれば次の九名である

[illegible]

臺大農專北一中兩團四日歸途へ

【大阪四日發本社特電】第十一回全國高專ラグビー大會に出場の臺大農專と中等ラグビー大會に出場せる臺北一中チームは共に四日出港の吉野丸にて歸臺の途についた

ラヂオ

午前の部

[illegible]

午後の部

[illegible]

夜間の部

[illegible]

けふの天氣

概況　[illegible]

各地溫度　[illegible]

愈々本日千秋樂
日延べ返興行絕對致し不申候間御見逃なき樣御來觀願上候
河部五郎

[illegible]

看護婦書生　[illegible]

日馬力運搬船　[illegible]

電話[illegible]議店　[illegible]

外相聽取南京總領事報告
依然固持既定方針
希望日華交涉協調
蔣氏見抑黨部果出何態度

東京五日電。廣田外相。四日聽取須磨南京總領事詳細報告。更聽取二次徵求現地側強硬態度意見。四日會見結果。大體固持既定方針。謀開南京會議調整日華兩國一切關係。此其前提。似擬要求華官反省。卽華官令丁駐日代理大使。唱全面的日華交涉。未入具體的問題。或爲華北問題。親日要人暗殺問題等刺戟。謀和本邦輿論之手段。一面觀之華官經王寵惠氏。對廣田外相。要求互惠平等。及日前張外交部長就任禮辭。似要望不平等條約撤廢。華方如或提出不當要求。或出利用交涉於他目的之態度。日華關係。打開不能。在外務省。或爲與華方交涉排日運動。徹底取締之地。華方或爲交涉基礎。必要照我三原則。提示具體案。要望華方反省廣田外相之意。華方如容前提條件。依然不捨日華外交交涉之協調方針。但蔣行政院長。似爲黨部強硬態度所抑制。不知得出何態度。頗堪注目云。

三陛下
與兩殿下
宮中御團欒

東京五日電。皇太后陛下五日午後一時四十五分。隨入江皇太后大夫以下。駕出大宮御所。而入宮城與天皇。皇后兩陛下。竝皇太子。義宮兩殿下。御對面。御禮辭交換後。相與團欒。共慶新春。同四時二十分。駕出宮城。還啓大宮御所云。

國府提議南京會議
我方不卽應承
轉望懸案先決

上海四日電。國民政府。爲日華國交調整。提議南京會議。我方決定如左觀之現在日華兩國關係可謂本末顚倒。若國民政府。亦開南京會議。必先抑制黨部對日強硬分子。及歐米派等之反對。努力解決日華兩國諸懸案。至少有吉大使與蔣行政院長。交涉根本的國交調整。同時張外交部長。與我外交當局。亦能交涉解決。卽將以上情形。直傳於國民政府當局。有吉大使之意。在派若杉參事官到南京。與張外交部長。具體交涉日華航空聯絡。關稅改訂。華北自治區域。對日關係改善等。若杉參事官。豫定本月中旬到南京約一個月留滯云。

蔣氏到滬
存問汪氏

上海五日電。蔣行政院長利用週末。存問汪兆銘氏四日夜。搭南京發列車來滬。五日午前七時。到北停車場。入法租界孔財政部長私邸云。

昌黎附近急行列車事件
寧路當局正式謝罪
且求斡旋政權問題

北平四日電。北寧鐵路當局。四日對北平駐在武官今井少佐。就二日昌黎附近所起急行列車事件。對我軍憲兵傷害事實。深表謝罪之意。且就今後停戰區域內。冀東自治政府範圍內。北寧線管理權問題解決所關事且。求與冀東政權斡旋。該政權。既接收關內北寧線收入。及他鐵道財產。而理該區內北寧線管理實權。北寧線當局不將冀東自治政府管理權完全承認。問題解決困難乘此機會。冀東自治政府管下。北寧線分離管理問題。或着其體而行云。

張氏會宋氏
懇談政權
並傳蔣意

北平四日電。國民政府要人張公權氏。四日自午前至午後。與宋哲元氏會見以北寧鐵道管理問題爲中心。和與懇談。此爲冀東自治政府。欲將西部北寧線大半。單獨管理。協議善後策。宋氏否以冀東自治政府。不與冀察政務委員會合流。獨立傾向反復問題解決極難。張氏希望以冀察政務委員會之責任善爲處置。毋使鐵道主權有所分離。未到結論。更擬五日會見續行。又四日會見。張氏傳達蔣行政院長之意向。可爲牽制云。

米元首教書
意政府淡視
且加酷評

羅馬四日電。米國羅大統領議會敎書。意國政府當局。淡然視之。政界要人且酷評如左。羅大統領。實際無所認識。只羅列一般論。必要理解意國眞立場。而知其實情。意國對神祕國已隱耐四十年。再能忍耶。其教書中。是認意國目的之合理的合法的。而有所言及之點。所堪欣慰。惟斯是認。不伴具體方策。可謂全就無意味也云云。

神祕國政府覺書
聯盟事務局公表
在請公平調查紛爭眞相

壽府四日電。國際聯盟事務局。公表神祕國政府提出之覺書。卽請聯盟。速將[illegible]紛爭眞相。公

大溪消防出初

大溪郡大溪街消防初出式月四日於同街田心仔廣場高架假屋一座。是日午前六時。鳴警號爲號放火。一時火焰沖天。卽由街內壯丁五十餘名。一齊出動驅卿筒實地實演消防。至同九時迄成績佳良終了。

全島消防組
出初式

▲新竹市　消防組出初式去四日午前八時。在州廳前廣場。由增田知事。暨重要官民。多數臨席。有組員之分列式。唧筒操作。乘梯子。消火演習等。至九時半終了。晚開新年宴云。

▲臺中市　消防組初出式去四日午前七時半。擧于臺中公園招忠碑前。有日下知事。細井警務部長。藤田市尹。大塚署長。暨重要官民出席。先是午前六時鳴警鐘。全組員集于詰所。分乘自動車抵公園先揭國旗。組長奉讀令旨次大塚署長檢閱服裝。署具。及報告成績。日下知事訓示一場。藤田市尹祝辭。授與酒肴料。組長答辭。乃閉式。纜操練唧筒乘梯子獻技。消火演習。至九時終了云。

▲高雄市　消防組出初式去四日午前七時。擧于二小正門前廣場。東本組外全組員。各私設消防組壯丁團等入場。內海知事。廣谷內務。宮尾警務兩部長。松尾市尹。暨地方重要官民多數臨席。定刻。合唱國歌。揭國旗。工藤署長報告槪況。內海知事宮尾警務部長。松尾市尹前後授與酒肴料。次宮尾部長訓示。松尾市尹述祝東本組長答辭。續操練消火唧筒。乘梯子獻技。至九時閉式。又組員一同赴市內各官衙會社其他。乘梯子獻技。大博一般喝采晚　新年宴云。

▲花蓮港街　消防組。去四日午前八時。依例在花岡山。擧出初式。有藤村廳長。暨地方重要官民多數出席。刻至。山田組長報告經過。清水支廳長報告實務。次表彰高橋清八郎氏外十名。藤村廳長訓示。山田組長答辭。次操縱消火唧筒。乘梯子獻技乃閉式。

鼠　宜蘭街　謝清坤氏畫

本島曇雨
全國氣候概況

臺北觀測所。去五日午前五時。發表全國氣候如左高氣壓七百八十粍。在北滿洲方面。移動于南東。低氣壓七百十四粍。在千島方面。進向北東。內地天氣。裏日本降雪表日本晴天。北海道亦晴天。樺太方面降雪。朝鮮。滿洲皆晴天。沖繩方面曇天。本島。卽北部降雨。其他曇天。近海亦曇天。有北東疾風。浪亦稍高云。

論臺灣青果統制
與北州柑菜之進出
臺北州柑組理事林振聲談

臺灣雖蕞爾島國。而產物甚蕃。如米糖茶鑛物青果等周爲世人所周知。而青果中之芭蕉。鳳梨。自統制以來。聲價日振。唯柑橘因統制未就緒。故尚不及芭蕉鳳梨之發展。玆將統制上之效果。略述于左。

一、芭蕉與鳳梨統制

芭蕉每年進出海外。多至一千二百餘萬圓之巨額。皆因有統制使然。其進出于海外。始于明治三十六年。由一部仲買人。對生產者採買。自由移出內地

刮目而待也。

一、柑橘蔬菜之統制

柑橘與蔬菜。雖到處有各種獎勵或改良。仍因失其統制。竟未見發達。年產額二百餘萬圓。而消售于海外者。爲數無幾。且聲價亦不振。其中柑橘。有中北三州同業組合。然因設立未久。基礎未固。故終無何等成績可觀也。臺中柑橘同業組合。因組織數變。現則近于理想組合然新竹臺北兩州組合。係生產者與仲買人合同創設二者立場相反。迄今未有秩序。故欲求達到青果產業政策。前途未可逆睹也

一、臺北州組合創設

（一）設立動機。昭和八年中。同州勸業課勤務總督府技師梶原通好氏。旅行新興滿洲帝國管內。調查斯業。頗有所感。歸臺後建策于上司。竝對同業者極力提倡。幸得一同贊成乃于是年十二月。創立臺北州輸出青果組合。目的在進出于滿洲國關東州及華北一帶。初因世人多未悉滿洲爲何地。且屬初建之國。殊懷疑惑。嗣經有數有力者之贊同爲楔機。以左記趣意書募集組合員

（二）趣意書。蓋自滿洲建國以來。臺灣與滿洲國關係頓增緊密。且客秋（昭和七年）。于臺灣大連間。大連汽船會社。新開運直行航路。自是貿易之發展。頗覺驚異。由南國之臺灣輸出北國滿洲之農產。卽蔬菜。果物茶等。過去一年間輸出量。將近三萬噸扣除從前輸出之芭蕉約一萬五千噸。尚有半數之蔬菜果物輸出。其中臺北州下出貨。居其大半。足見將來大有厚望也。觀前一年間實績。因輸出亂調。殆價不張。而輸出地。殆限于大連市場一處。于其他地毫無開拓。欲期菜果輸出健全發達。必先統制其出貨。及開拓銷路爲緊要爲達成目的。關係當業者乃謀創本組合。（三）事業開始與統制。組成既成。乃與大連及近海兩船會社締結運輸契約。且約對組合員外出貨。絕對無運配當時組合員約百名。全年春開業。現組合員。百五十餘名。出資五千圓。積立金七千餘圓。基礎已堅實。以後對南華及內地輸移出者。或將全部網羅加入。今將創立以來兩年間成績列左。

輸出地別出貨量

區別	果實 個數	果實 價格	蔬菜 個數	蔬菜 價格
昭和八年度				
大連	二八、一〇七	一八二、六九三	二三、〇三七	五五、〇九三
奉天	四、六三九	三七、一二二	三〇六	一、〇七一
天津	一〇、五八七	一五八、八〇五	三三九	一、六四五
靑島	九〇一	一一、七一三	一三六	五四四
營口	五六二	一二、二四八	二九一	七二八
哈爾賓	一七	五一		
計	四四、八一三	三九二、六二四	二四、〇九九	五九、〇八一
昭和九年度				
大連	三三、二九一	一七九、七七一	二九、一七三	七四、九八五
奉天	七、〇八四	五一、〇〇五	八二	二九五
天津	八、九二〇	一三〇、四二〇	三九	一九五
靑島	六六五	七、九八〇	—	—
營口	一三〇	九三六	二	六
計	五〇、〇九〇	三六〇、一一二	二九、二九八	七五、四八一

（備考果實每個約七十五斤蔬菜每個約五十斤）

品名別出貨數量

（一）果實部

品名	八年個數	九年個數
椪柑	一八六	二、〇〇四
桶柑	三九、八〇〇	四三、七九九
雪柑	三三	六〇四
斗柚	二	三、〇一一
生李	四、五六七	二四四
鳳梨	一〇六	三二五
木瓜	九	六六
其他	四	二二
計	四四、八一七	五〇、〇九〇

（備考斗柚因事業開辦時。經已出盡。而生李係決算期後。故八年較少）

（二）蔬菜部

品名	八年個數	九年個數
甘藍	[illegible]	[illegible]
豌豆	[illegible]	[illegible]
胡瓜	[illegible]	[illegible]
番茄	[illegible]	[illegible]
冬瓜	[illegible]	[illegible]
茄子	[illegible]	[illegible]
生姜	[illegible]	[illegible]
芋	[illegible]	[illegible]
蕗	[illegible]	[illegible]
午蒡	[illegible]	[illegible]
人蔘	[illegible]	[illegible]
西瓜	[illegible]	[illegible]
西瓜	[illegible]	[illegible]
南瓜	[illegible]	[illegible]
生姜	[illegible]	[illegible]
枝豆	[illegible]	[illegible]
其他	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

其他如菜頭、蕨、結球白菜、大心菜、刈薯、葱、馬鈴薯、茄芽、甘蔗、花椰菜、苦瓜、味瓜、芭蕉、龍眼、芹菜等。均有多少出貨。

一、臺北州柑組創設

同州輸出青果組合。經見如是發達。然係任意組合。昭和九年十二月。受督府諭示。亦照臺中新竹兩州創設柑橘同業組合。以青果組之多出貨者爲發起人申請。卽蒙批准。于翌年二月。開創立總會。其設立主旨。自昭和三年度以來。遂地栽培柑橘。爲十二年繼續事業。實施高墻桶柑。獎勵強頑。現在年產八百萬斤。金額三十餘萬圓。若合其他柑橘類。總生產額約五十萬圓之譜占全產額之四分一。且逐所有增產之勢。卽以兩年度之輸出滿洲國。以量計之自有五萬箱左右。又與中部柑柑竝肩。前柑橘之進出最有望。然欲保持海外聲價。必須選果。檢查品質。改善容器及裝貨等。第輸出青果組。係任意組合。難期成功。須照法定設立。與他同業團體連絡確保對分的權利。俾信用向上。乃與臺北州輸出青果組合分離。獨立組織。因承各關係業者同意。遂于十年七月認可。將于本年春頭。開始檢查事業。對海外之輸送。于客臘中以臺灣青果會社。指定爲運輸機關。島內搬出。亦各指定。至于柑橘檢查。因組合創立未久。實無確實經費。故不能置專任檢查員。唯幸得當局援助。囑託州園藝技術員。及各郡駐在害蟲巡視員等。爲柑橘檢查員。按本年春初實施檢查。現在檢查所及詰所。制度如左。

▲臺北柑橘檢查所 ▲同士林詰所 ▲同淡水詰所 ▲同板橋詰所 ▲新莊檢查所 ▲新莊詰所 ▲林口詰所 ▲基隆檢查所 ▲宜蘭檢查所 ▲同礁溪詰所 ▲同羅東詰所

而對檢查所管外檢查。則以出張檢查。徵收檢查料以上三州柑橘同業組合既完備。而總督府爲統制全島斯業。行見創設聯合會。夫臺灣重要果產業者。依同業組合法。設立組合。且設聯合會。以統制之。政府又以積極種々獎勵。互相連絡。竝爲輸送試驗。擴張銷路。因而海外進出亦隨而擴大。臺灣果產業上之發達。可期而待也。雖經種々獎勵試驗。爲屬青物。不耐久存。故不能爲遠地輸送。現同州輸出青果組合員中。有要備冷藏輸送。然尚未有確信。將來成績如何。尚未可逆料也。

臺北市　加藤紫軒氏畫

聚賭十胡
各處罰金

七星郡士林街湳雅字德行百三十四番地吳賴省。同八番地林財福。百七十一番地林有田。百三十二番地施連福。士林街士林二百七十二番地。蘇文達等五人。去一日下午八時。在德行百三十四番地。竝絲製造場。聚賭十胡。公然輸贏。正在興酣耳熱之際。被該管長木巡查搖見檢擧。拘于士林分室。至昨三日。由田中分室主任。各處以科料金十九圓。而釋放云。

米穀代行會社大缺損
總會料有大波瀾
欲糾明當事者責任
塡補案有種々議論

臺北市臺灣米穀代行會社。爲臺灣正米市場買賣計算一切代行機關。設於昭和四年五月。株數二萬。資本金百萬圓。現在繳資約四十萬圓。年年克舉佳績。每期配當一成。蓋代行會社與正米市場。利益均分。市場組合員上場買賣之米一車須納手數料一圓十錢市場與代行會場。各分得五十五錢。如昨年至十二月二十七日大納會。因年來市況繁昌。買賣已多至十四萬餘車。至三月末日結算期。如機績好況。總買賣額或得至二十萬車。則會社當得利金十一萬圓每年經費。不過二三萬圓純金合得八萬圓左右。扣除配當一成之四萬圓。每年尚有利金四萬圓。萬一市況如三年前之式微。則利金只供配利一成而已此回該社用人。臺北市日新町一丁目八十番地謝根樹。二十七歲。空盤占賣囤積。價騰損失。僞刻組合員十數名印鑑。假造貨車積込證。由會社融資詐取十九萬六千七百餘圓致會社大缺損。客臘二十三四日。謝根樹因投機失敗。無可彌縫。已逃之夭々。斯時株主間議論沸騰僉謂社長吳澄淇。專務吳培銓兩昆仲。暨諸重役。監督不善。蓋謝自二三年前。已從事投機。初猶祕密。自昭和九年十月十一月二期米出。漸見公然買賣。昨年一期蓬萊米登場時卽盛行買賣。昨年中最多買賣時。一時曾達六七百車。頗惹市人注目。而會社監督當事者。不知防微杜漸。而常時出勤。負全責任之吳專務。監督不周。以致如是大缺損。惹世間物議。吳氏兄弟亦痛感其責任。已披誠欲提出其二胎之土地。提供於會社。以事塡補。來二十日將開臨時總會。議善後策事經前報。但其賠補。歸諸一兩人。亦未免使其大虧。株主三十四名。一部有作人情論。賠償三分一或半數之說。然二部內地人株主。於客臘座談會席上。吐辭則極強硬。謂直接責任者。須負全責。全額賠償。不應使無辜之株主負擔。現時整理案。有吳氏兄弟賠補一部分。而一部分由會社負擔之說。結局全株主吃虧。若然則此後數年間。會社或不行配金。所幸此種會社。非他種會社之利金不確實者可比。每年利金。隨上場米之多寡以爲低昂。整理後利金必恢復。惟眼前苦痛而已。似此大問題。來二十日總會席上。定必論難攻擊。波瀾洶湧。在所難免。又目下有謂責不應社長專務兩人獨當。而其他重役亦須負責。與之交關之組合員。亦不知戒愼。責任論紛々。莫衷一是。未卜將如何解決也。

朴子街　施雲從氏畫

去三日本報所載春鳥暢歡情謀書。亦施君所筆。因手民誤植。附此訂正。

屏東飛行隊
擧初飛行

屏東飛行第八聯隊。去四日午前九時半起。擧初飛行。先是九時。以戰鬪機八臺。由奧山中隊長以編隊長。前後離陸。而田中中尉爲隊長之輕爆機九臺十時離陸。凡二時間半。以阿緱平野爲中心。擧初飛行。同十時半。無事終了抵陸。

飛到嘉義市
旋回而去

屏東飛行隊。初飛行之四日朝。以八機編隊。飛到嘉義市上空。旋回數次。至十時五十二分。再飛歸云。

臺北中華會館
十二屆職員
就職典禮

臺北中華總會館。職員任期已滿。去三日午後六時在該會館投票改選。本日午後四時。在該會禮堂。舉第十二屆新職員就職典禮。招待總領事。副領事北署。憲兵隊幹部列會。當選者如左。主席團張惠南（廣東）陳三綿（漳泉）黃成發（福州）監察委員林梧村。陳發梨楊文徙。李春佳。陳卿濟。翁林泰。傅光水。楊心如。陳裕意。執行委員潘文安氏外十八名。教育委員鄒訪梅氏外六名慈善委員郭祥順氏外五名

三新竹驛夫
戲燃爆竹
投入郵函

新竹市黑金町五丁目。第十五號郵便函。去三日午後五時。有內地人二名。以爆竹點火。投入郵便函被新竹署憲兵本刑事發覺急以電話通知郵便局。幾局員馳到。欲開同函。因函內郵便物已著火。黑煙々不能開。不得已打破該函。取出燒未了郵便物。又該犯人。探知係新竹驛々夫南部直裕。年二十五。同土屋竹丸。年二十七。同加治太次郎。年二十六。等三名所爲。卽拘之歸署。嚴重查究中云

彰化

學始政式

彰化市署。郡政始式。去四日午前十時。一齊舉行。各職員出席。由所屬上官。訓示一切。畢理庶務。正午告退。

新年句會

彰化市內。在住俳句同好者。組織銀句社。五日午後六時。在佐藤榮銀支店長宅上。開新年句會。是夜出席者。二十餘名募兩題。優良作者。各贈與記念品。十時閉會。

人事

▲大溪街長吉田文郎氏之長男吉田要君。者許依佐賀市原田善吉氏長嫂。與江川夏子孃結

▲臺東街協議會員陳英氏五日來北。投宿於永樂町[illegible]

由恒春歸去。

海上雲遊　雪漁　謝汝銓

卿雲紀役扶桑。生面何東波不揚。維瞻一國底[illegible]々。治體成風化[illegible]然有象施香澤。大矣無垠接混沌。極目三神山以外水天連處見霞光。

丙子元旦

又是昭和十一春。來朝爲果禮明神。看見兢爲含化字。酒器先前試年新。賀詞郵寄四方書。冬到說朋衛覺陳。歲紀兒孫十祖若。屠蘇酒飲白軒渠。臺常居後斯當前。一子回頭十二年。喜行文章千古業。慈航詩卷手重編。

小說

偵探案（三）
新式科學的搜查（八）
殺死強姦又掠財（三）

我慾情難禁。從刃於就之。麗人忽醒。在燈光之下見我。以猛力推我墜。躍起執刀怒狠々欲殺我。對屍膽落。我急避奔其力。遂大呼。時秦在外觀風。聞聲奔來。拘住麗人細腰。以手掩其陰部。麗人怒叉力呼。我乃斬其右頸。嗚其勿逃遯。麗人掙扎不得脫又負傷流血。曰我已被二人所辱。不如死。汝殺我敵然。我斷々不從汝二人。言訖又呼我又斬其頸部。遂氣絕不出聲秦乃放手。命扶之臥。觀之其死否乎死。遂登之。得片刻歡娛乃起。於是搜括有無金錢。在衣廚內。獲手提金庫。開之內有現金千圓。皆是十圓紙幣我納諸衣袋。先行走出。秦隨我後亦出。至無人處。我欲與秦分路避難。秦索分紙幣我不與。秦怒曰。汝必與我我必自首。凡人是汝殺。不是我殺。我罪輕於汝。我怒曰。汝敢報我殺。恐我何人作證。汝言我殺。我必言汝殺。秦之力弱於我。不敢爭。僅々而去我忽然覺悟曰。秦適遇之技木棍。乃拾在手。從後追之日秦君且停。我分與汝。汝勿怒少我亦不欲。我給之曰。汝我全部與汝亦不妨。我出其不意以木棍力擊其頭。一擊卽斃。我扶他屍。至於水際。恰値大潮。秦之屍骸。隨潮而去。想葬魚腹矣。故其案亦不破。問官所詰。遂照供詞。活捉事同因其同日害兩命。罪大惡極。判決死刑。先是刑事課疑殺女傭故意爲之。與其夫或他共謀捕該女傭詞者。異刑拷問。女傭之夫乃是者。亦受拘禁。女傭受不起嚴刑。竟指爲共夫所爲。問陷害不能言。其夫爲他而死。竟不翻案。仍供爲其夫所爲。持刀殺死子者乃是他。不是其夫。甘願死。承以其言太矛盾。與案情不合指摘又不對。合同於刑務所。末定案。至是乃釋放。